



川北町人口ビジョン



平成 28 年 3 月

川 北 町

< 目次 >

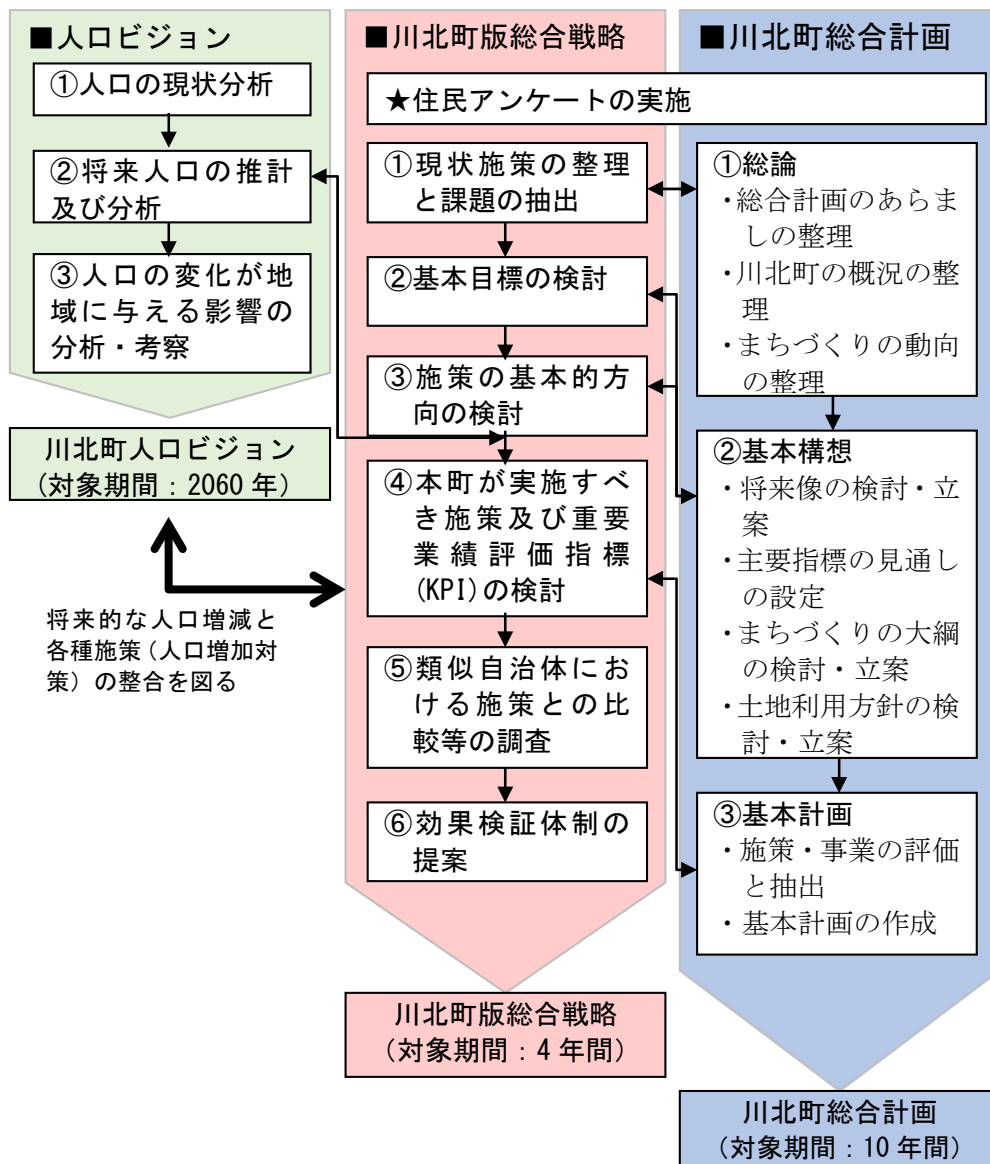
1. 人口ビジョンの考え方	1
2. 川北町の現況	3
1) 人口ピラミッド（国勢調査：1985年、2010年）	3
2) 人口・世帯数・世帯人員の推移（国勢調査：1985年～2010年）	4
3) 年齢3区分別人口の推移（国勢調査：1980年～2010年）	5
4) 年齢3区分別人口割合の推移（国勢調査：1985年～2010年）	6
5) 年齢3区分別人口割合の比較（国勢調査：2010年）	7
<参考>地区別高齢化率の動向（H27年4月）	8
6) 産業別人口	9
7) 自然動態の推移（2006年～2014年）	11
8) 合計特殊出生率（1998年～2012年）	11
9) 社会動態の推移（住民基本台帳：2005年～2014年）	12
10) 男女別・年齢階級別社会動態の推移（国勢調査：1985年～2010年）	13
11) 転入・転出先（国勢調査：2005年→2010年）	14
12) 男女別転入・転出先（国勢調査：2005年→2010年）	14
13) 年齢階級別転入・転出の状況（国勢調査：2005年→2010年）	15
14) 男女別・年齢階級別の転入・転出の状況（国勢調査：2005年→2010年）	16
15) 県内外別・年齢階級別の転入・転出の状況（国勢調査：2005年→2010年）	17
16) 男女別・県内外別・年齢階級別の転入・転出の状況（国勢調査：2005年→2010年）	17
17) 現況の総括	18
3. 川北町の将来人口	19
1) 推計パターンの考え方	19
2) 町全体の人口推計（2060年まで）	20
3) 人口変化が将来に与える影響	23
4. 町が目指す将来の方向と人口の将来展望	24
1) 町民の意向（町民アンケート結果より）	24
2) 川北町が目指す将来の方向	27
3) 人口の将来展望及び目標人口	28

1. 人口ビジョンの考え方

(1) 川北町人口ビジョンの位置付け

川北町人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえた川北町の人口の現状分析と将来推計により、今後、川北町の目指すべき将来の方向性と人口の将来展望を示しています。

川北町人口ビジョンにおいて設定した将来人口は、行政・町民が川北町の人口に関する現状を共通認識し、「川北町版総合戦略」及び「川北町総合計画（基本構想及び基本計画）」における施策を推進していくための指標のひとつとなります。



(2) 川北町人口ビジョンの対象期間

今後の定住や出産に関する施策等の効果が川北町の総人口や年齢構成に反映されるまでには長い期間を要することから、川北町人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンの期間と整合を図り、2060年（平成72年）とします。

(3) 川北町人口ビジョンの考え方

我が国では、2008年から人口減少時代に突入し、今後人口減少による消費・経済力の低下等が懸念されています。東京・大阪・愛知などの都市圏では、地方からの人口流入により、今後も一定期間は人口の増加が継続すると予測されていますが、地方都市では人口を維持していくことも困難な状況にあります。

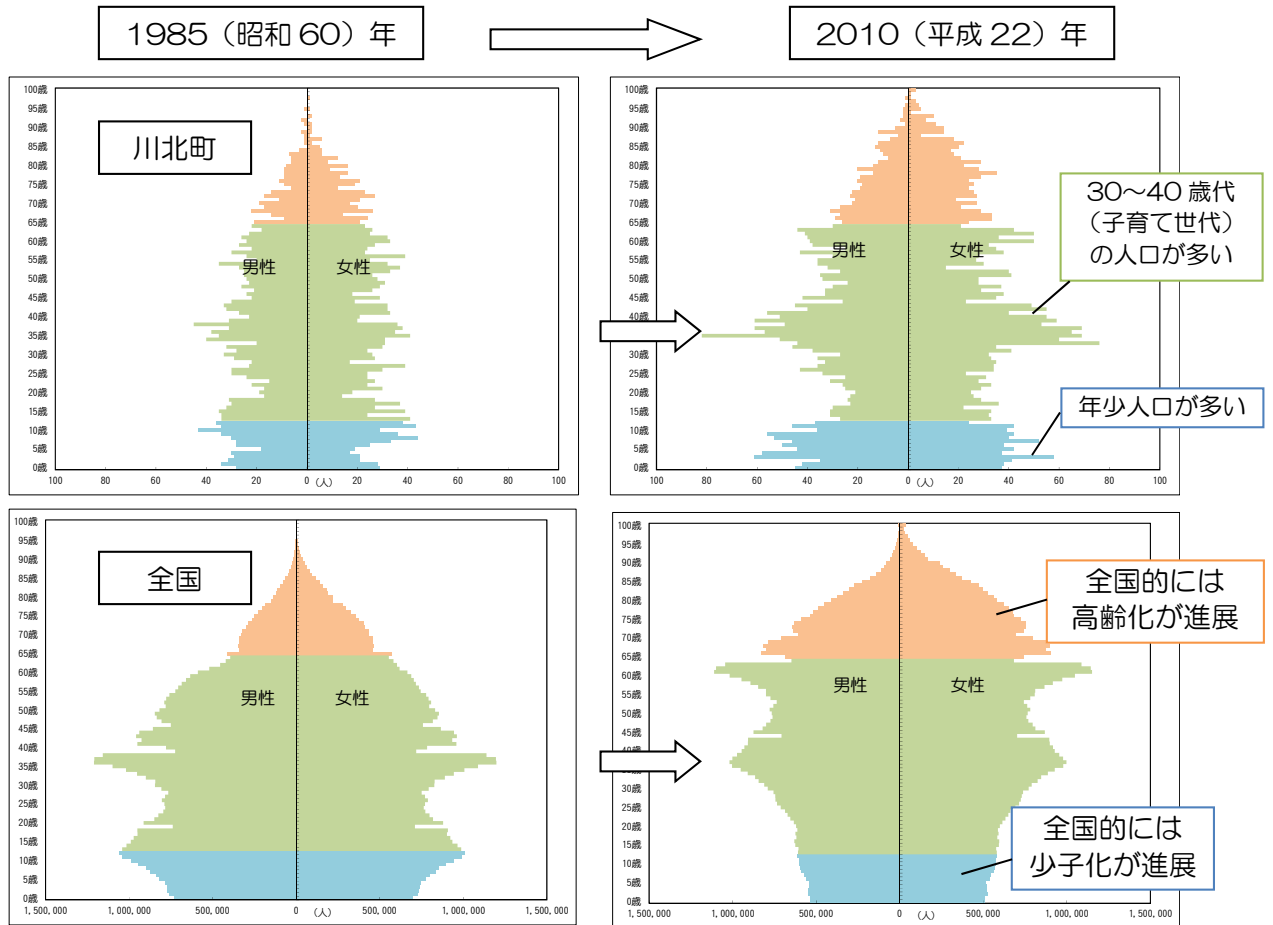
国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の将来推計人口は、過去の実績からも高精度な推計であると言われていますが、国が目標としている女性の合計特殊出生率の増加による将来推計人口は、希望的な予測との見方も否定できません。また、川北町においては、全国的な人口動向と大きく異なる人口特性を持っていることにも留意する必要があります。

そのため、川北町人口ビジョンでは、必ずしも社人研推計人口にこだわることなく、川北町独自の人口動向を勘案した将来人口を設定します。

2. 川北町の現況

1) 人口ピラミッド（国勢調査：1985年、2010年）

●全国的な傾向として少子高齢化が進み「壺形」の人口ピラミッドに移行している中、川北町においては、年少人口（0～14歳）及び30～40歳代のいわゆる子育て世代の人口比率が高くなっており、人口ピラミッドの形が全国の傾向と大きく異なっているのが特徴です。



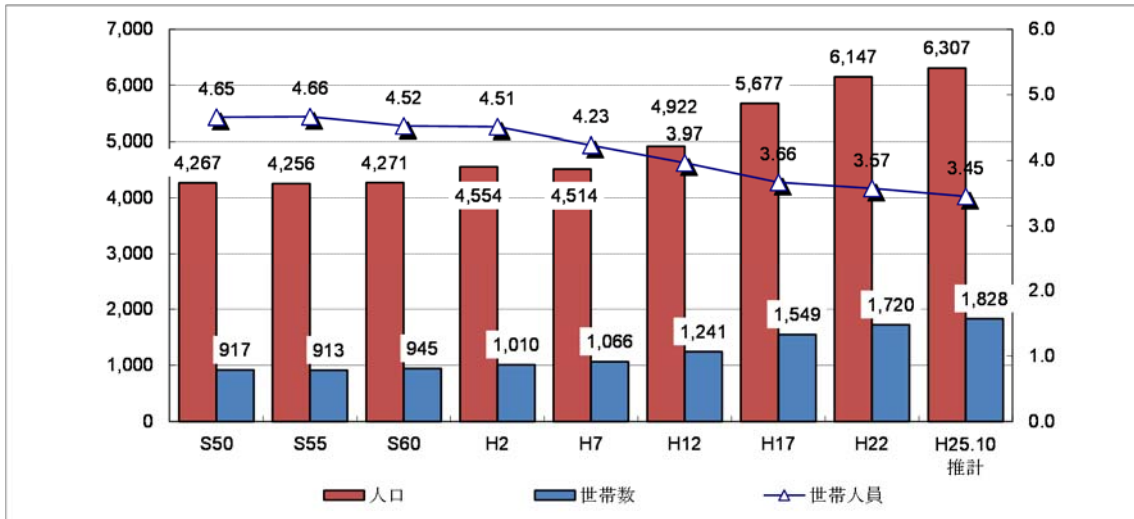
※年齢不詳は除く

出典：昭和60年・平成22年国勢調査

2) 人口・世帯数・世帯人員の推移（国勢調査：1985年～2010年）

●人口、世帯数はともに一貫して増加傾向にあります。世帯人員（一世帯当たり人口）は減少傾向にあります。

【人口・世帯数・世帯人員の推移】

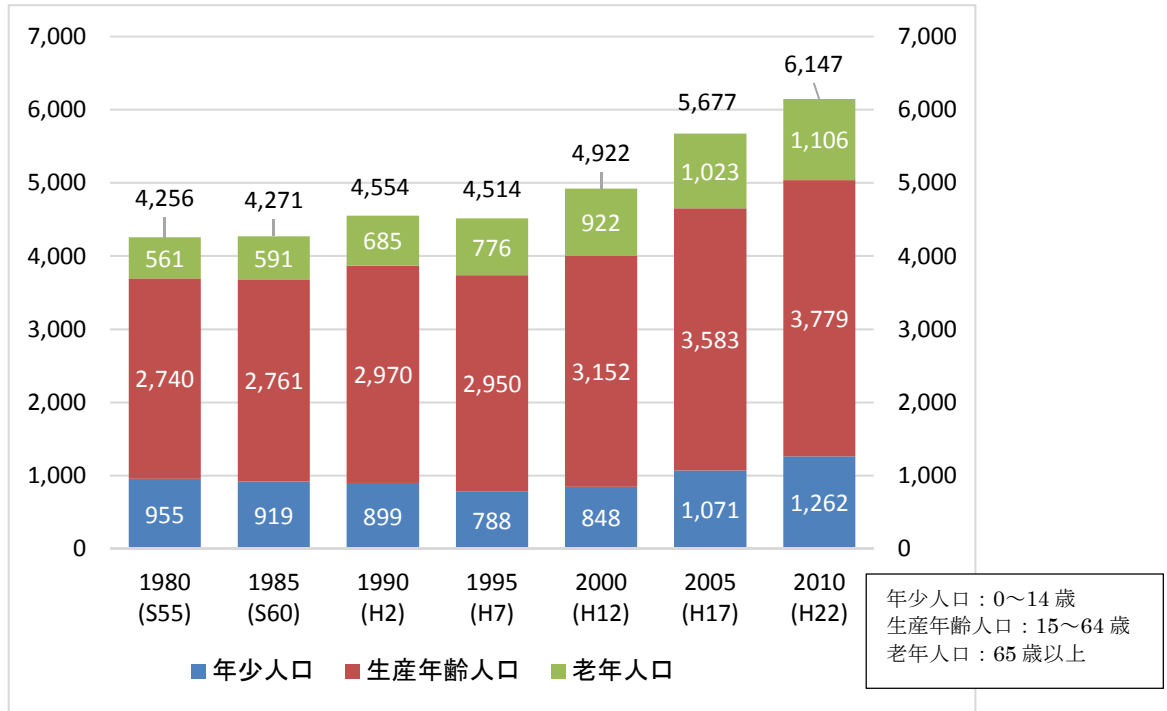


出典：国勢調査（H25.10は石川県統計書掲載推計人口）

3) 年齢3区分別人口の推移 (国勢調査：1980年～2010年)

●全国的に人口減少が見られる中、近年の**川北町の人口は増加傾向**となっています。

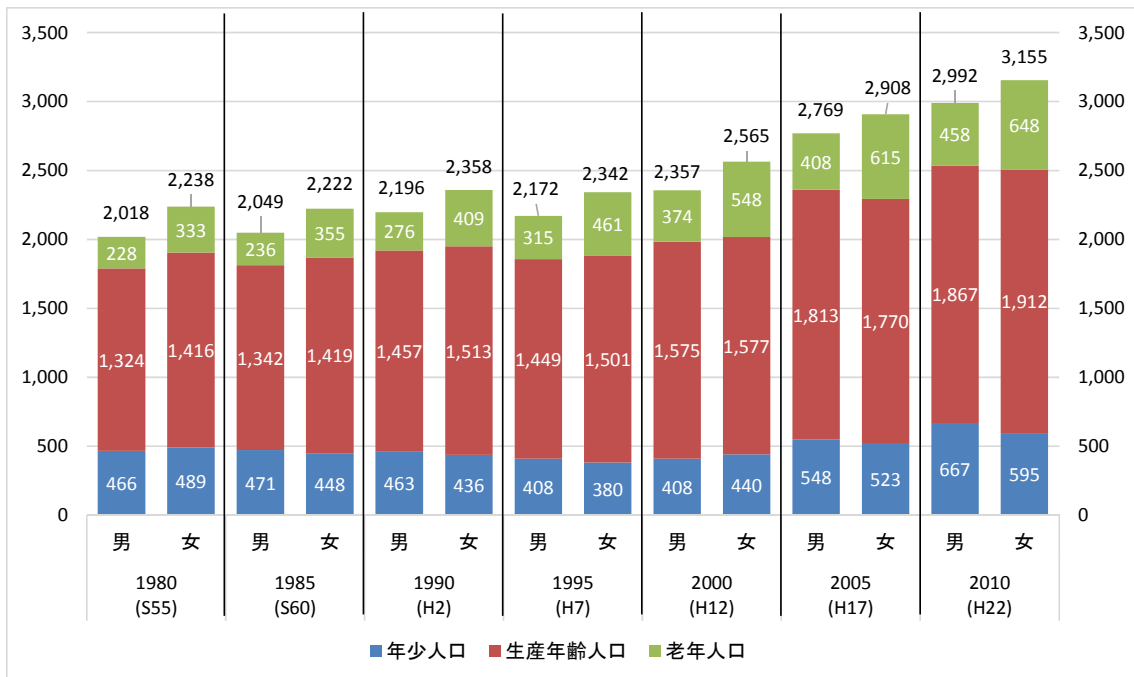
【年齢3区分別人口の推移】



※年齢不詳は除く

出典：国勢調査

【男女別年齢3区分別人口の推移】

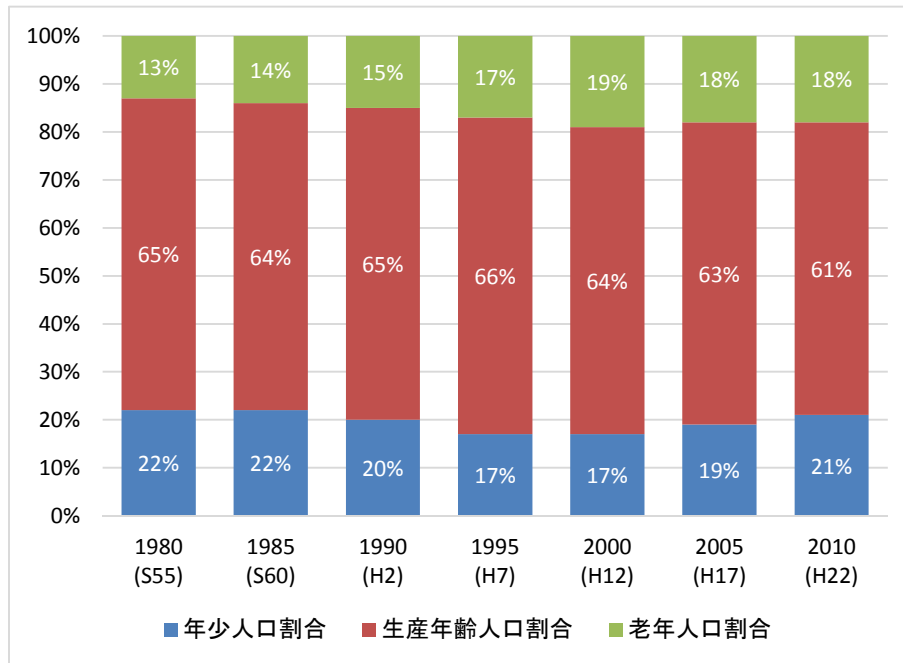


※年齢不詳は除く

4) 年齢3区分別人口割合の推移（国勢調査：1985年～2010年）

●1995年以降、年少人口割合が増加傾向にある一方、老年人口割合はほぼ横ばいで推移しています。

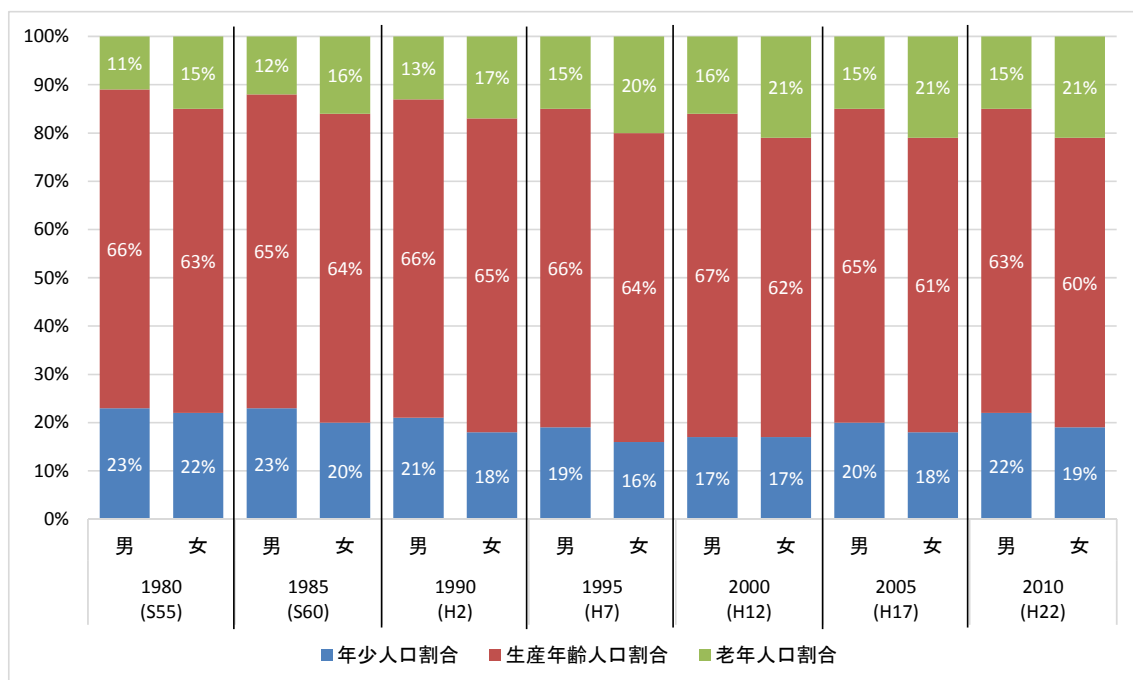
【年齢3区分別人口割合の推移】



※年齢不詳は除く

出典：国勢調査

【男女別年齢3区分別人口割合の推移】



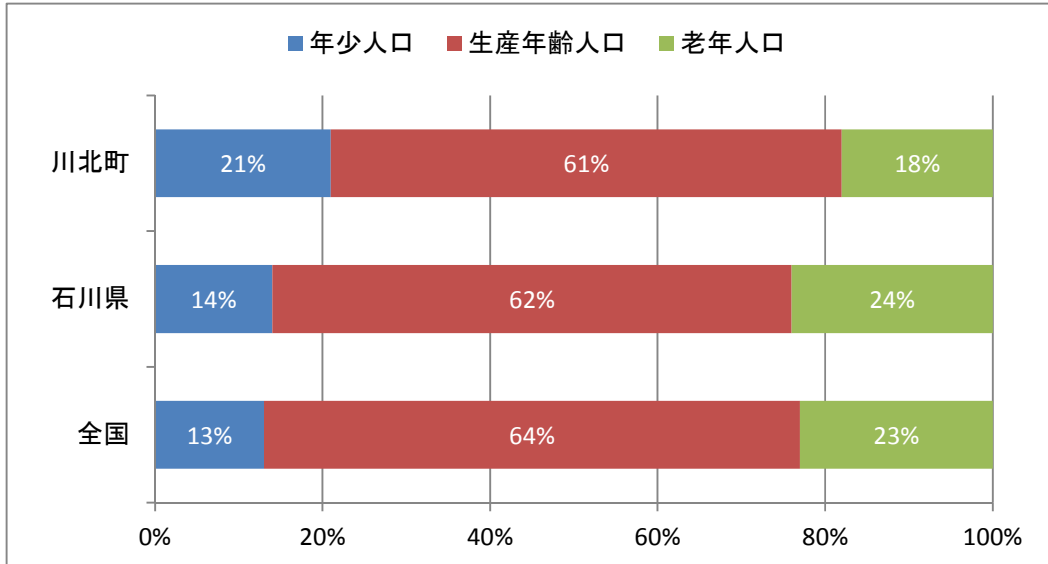
※年齢不詳は除く

出典：国勢調査

5) 年齢3区分別人口割合の比較（国勢調査：2010年）

●川北町の年齢構成は、石川県や全国と比べ年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）の割合が高くなっています。

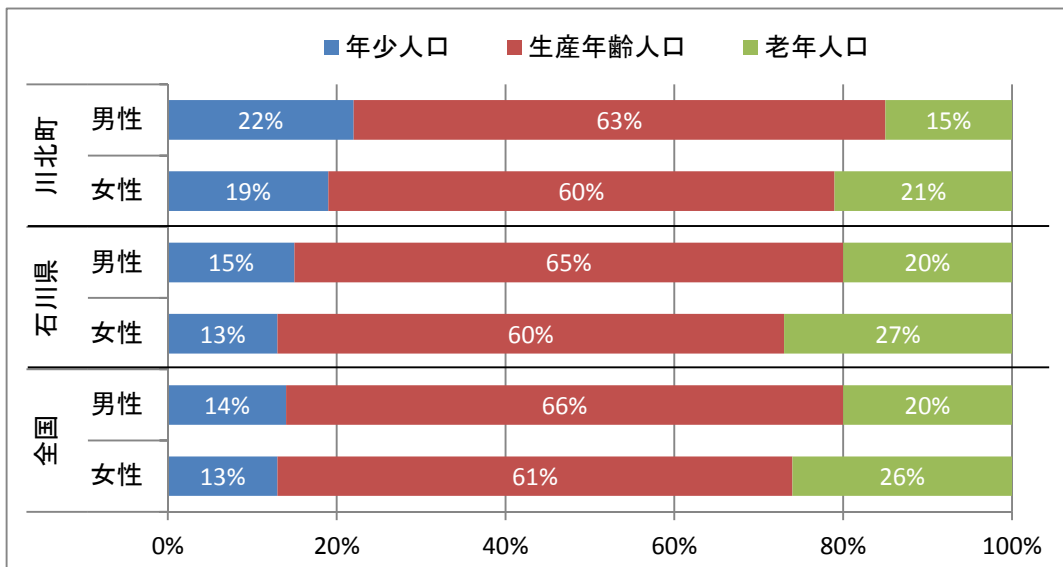
【年齢3区分別人口割合の比較】



※年齢不詳は除く

出典：国勢調査

【男女別年齢3区分別人口割合の比較】

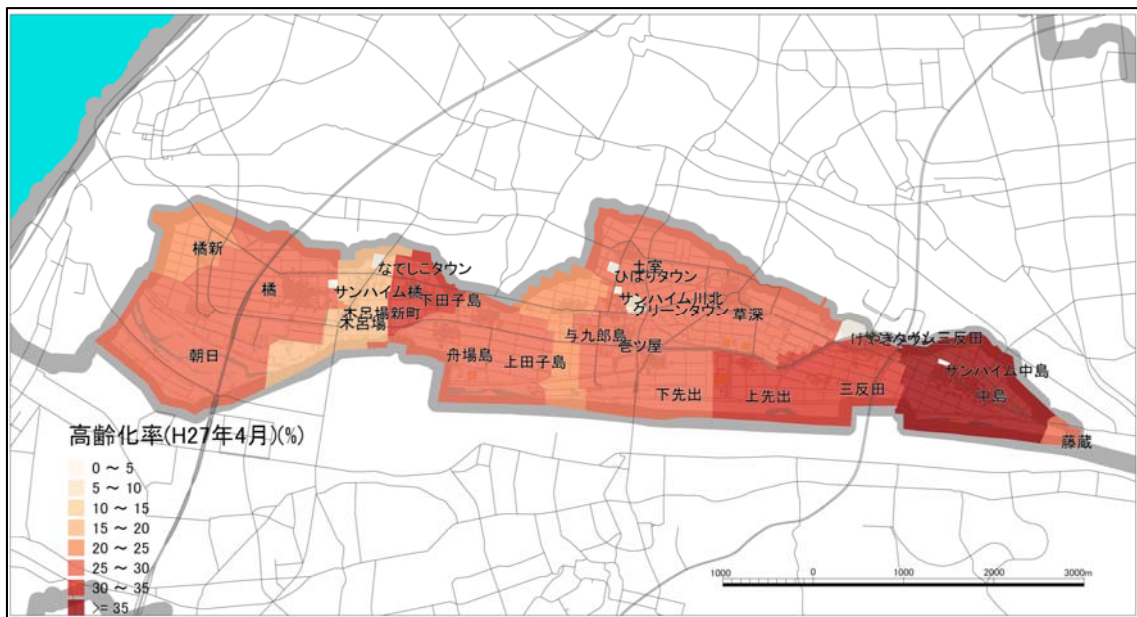


＜参考＞地区別高齢化率の動向（H27年4月）

- 高齢化率は町全体として見ると他自治体に比べ低いものの、地区別に見ると、町営住宅及び新興住宅地とそれ以外の地区とで高齢化率に大きな差があり、高齢化率が既に30%を超えている地区も4地区あります。
- **町営住宅及び新興住宅地を除いた高齢化率は27.3%**となり、年次は異なりますがH22年時点の全国(23%)及び石川県全体(24%)の高齢化率を上回っています。すなわち、川北町においても全国的な傾向同様、高齢化の波は既に到来していると言えます。

【地区別人口及び高齢化率（平成27年4月1日現在）】

地区名	人口	65歳以上人口	高齢化率
中島	379	145	38.3%
下田子島	265	85	32.1%
上先出	69	22	31.9%
三反田	281	87	31.0%
下先出	155	46	29.7%
藤蔵	31	9	29.0%
舟場島	175	50	28.6%
橋	699	196	28.0%
壱ツ屋	277	77	27.8%
草深	494	128	25.9%
土室	166	43	25.9%
朝日	128	33	25.8%
上田子島	219	55	25.1%
橋新	224	52	23.2%
木呂場新町	83	18	21.7%
与九郎島	318	67	21.1%
木呂場	433	86	19.9%
グリーンタウン	414	22	5.3%
なでしこタウン	162	6	3.7%
けやきタウン	249	6	2.4%
サンハイム三反田	182	4	2.2%
ひばりタウン	484	9	1.9%
サンハイム橋	137	0	0.0%
サンハイム川北	123	0	0.0%
サンハイム中島	135	0	0.0%
合計	6,282	1,246	19.8%
町営・新興以外	4,396	1,199	27.3%
町営・新興住宅地	1,886	47	2.5%

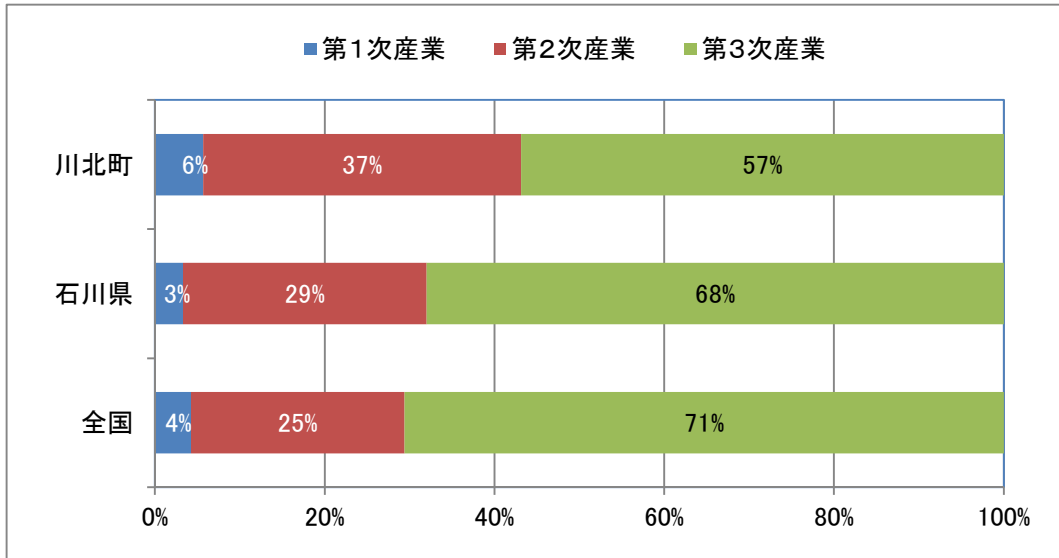


出典：川北町資料（住民基本台帳人口）H27.4.1 現在

6) 産業別人口

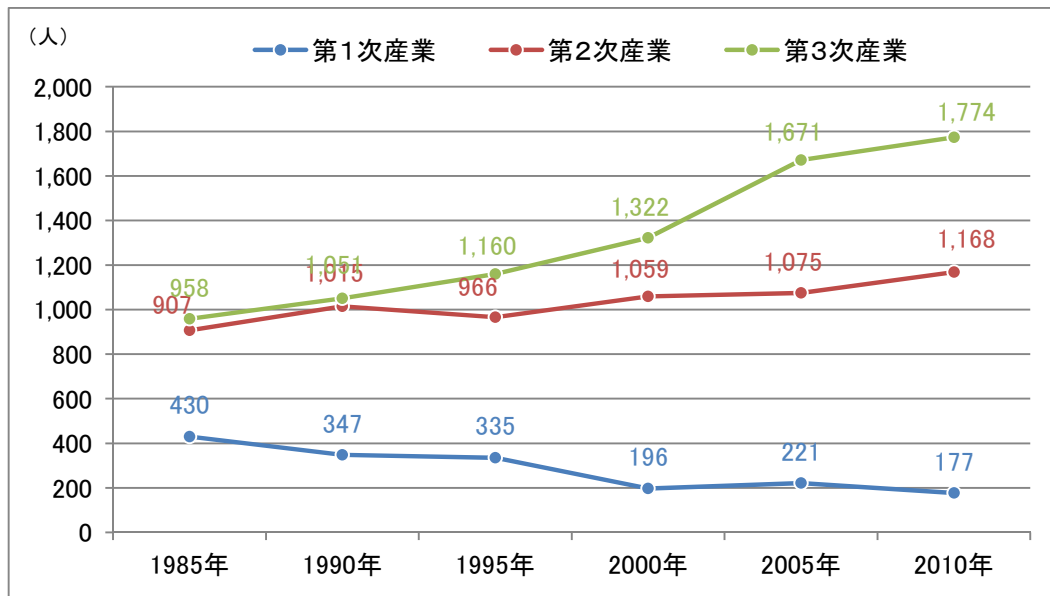
- 川北町では全国及び石川県全体に比べ、第1, 2次産業の就業者人口の割合が高くなっています。しかし第1次産業は減少傾向、第2次産業は近年では横ばい傾向にあります。
- 産業別では「建設業」「製造業」の従業員数及び特化係数が県と比べ高くなっています。

【2010年における産業（3部門）別人口割合の比較】



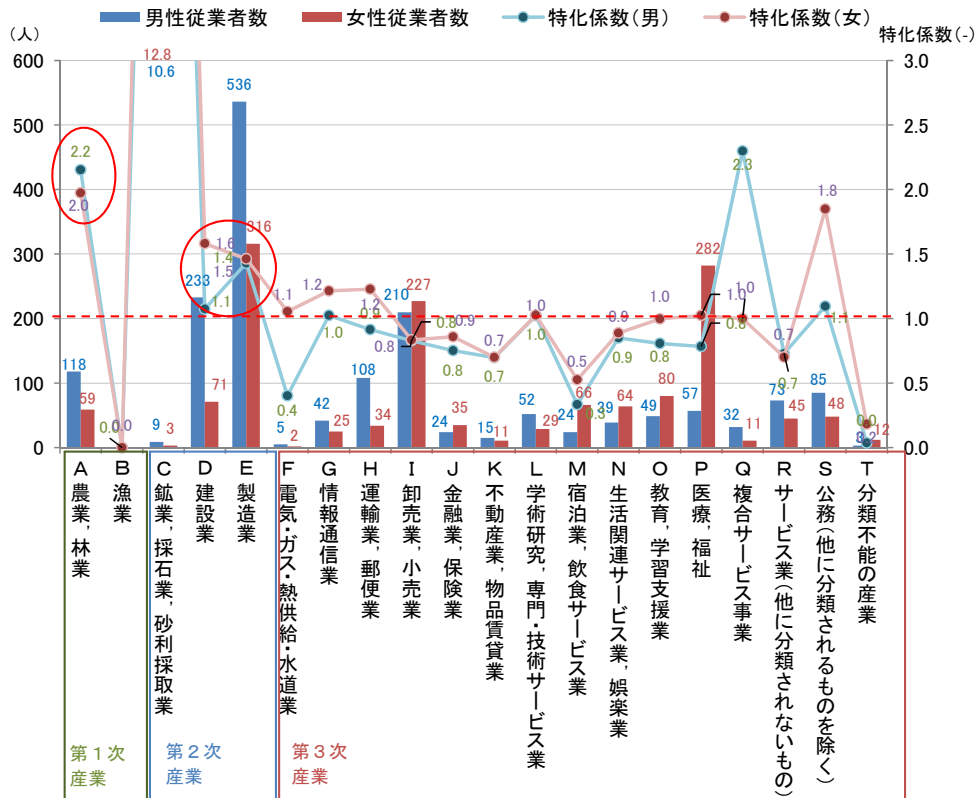
出典：国勢調査

【川北町における産業（3部門）別人口の推移】



出典：国勢調査

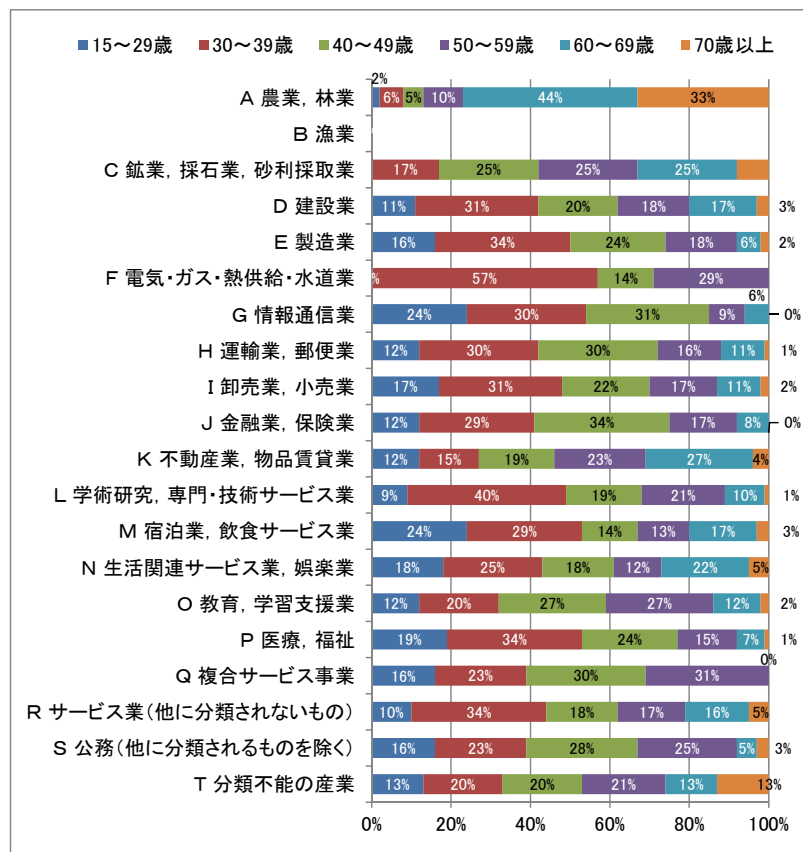
【川北町における産業（大分類）別人口及び特化係数（2010年）】



※特化係数：県の産業割合に対する比であり、1.0を超えると県平均よりも割合が多いことを意味しています。

出典：国勢調査

【川北町における産業（大分類）別年齢構成（2010年）】

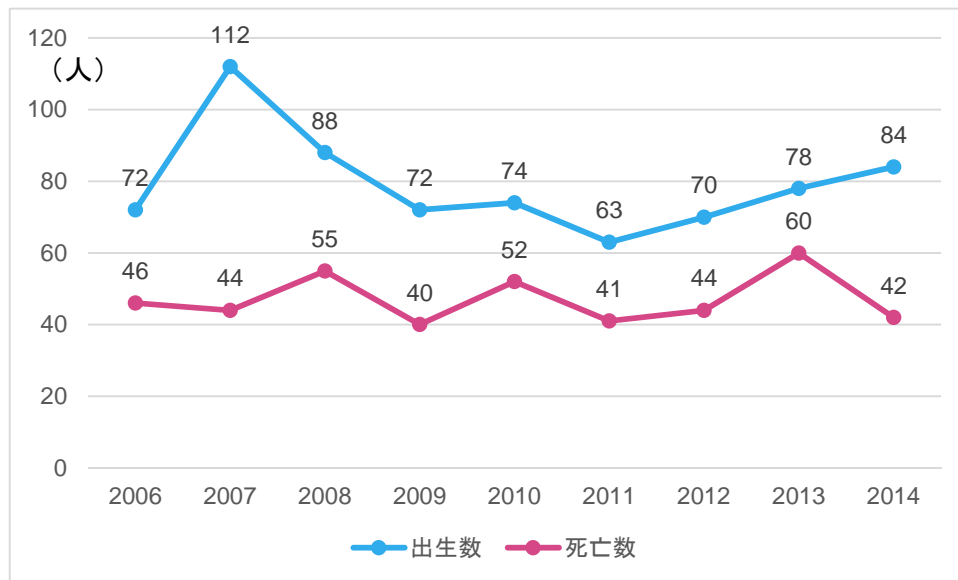


出典：国勢調査

7) 自然動態の推移 (2006年～2014年)

●自然動態では、一貫して出生数が死亡数を上回り、自然増で推移しています。

【自然動態の推移】

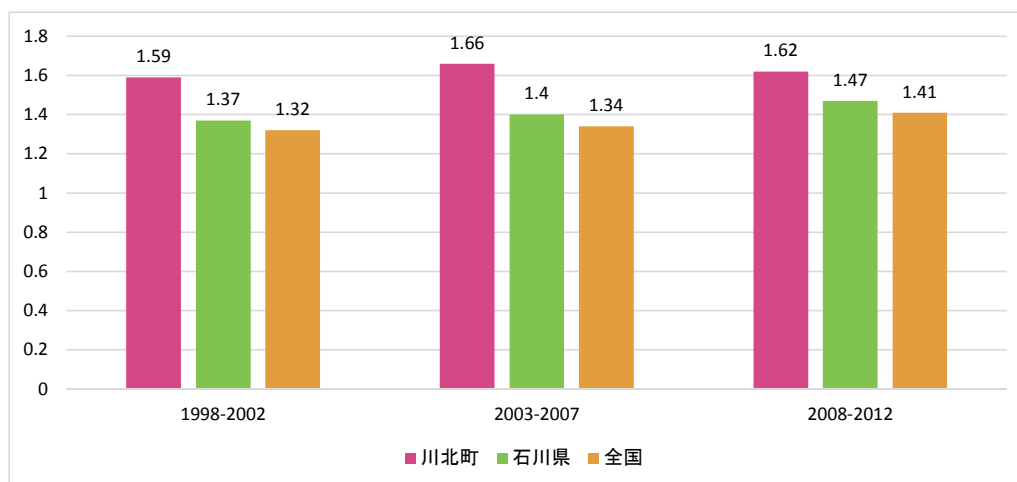


出典：石川県の人口動態（～2006年）、石川県の人口と世帯（2007年～）

8) 合計特殊出生率 (1998年～2012年)

●合計特殊出生率（女性が一生涯で出産する平均人数）については、石川県、全国と比べ高くなっており、年少人口（0～14歳）が多い1つの要因となっています。

【合計特殊出生率】



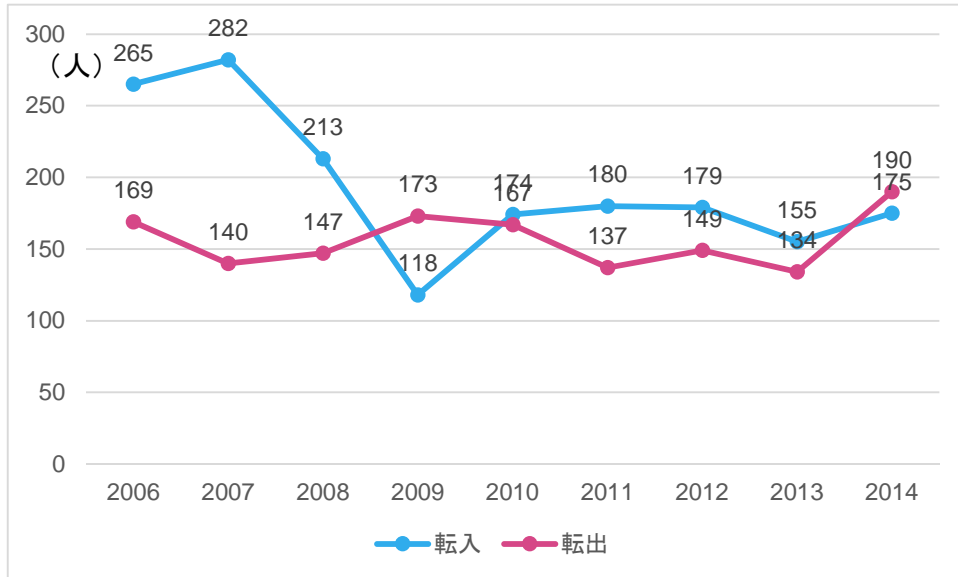
出典：国勢調査

合計特殊出生率＝一人の女性が一生に産む子どもの平均数を示しています。この指標によって、異なる時代、異なる集団間の出生による人口の自然増減を比較・評価することができます。

9) 社会動態の推移（住民基本台帳：2005年～2014年）

● 転入・転出者数は、ほぼ**転入超過**で推移しています。ただしその差は近年縮小傾向となっています。

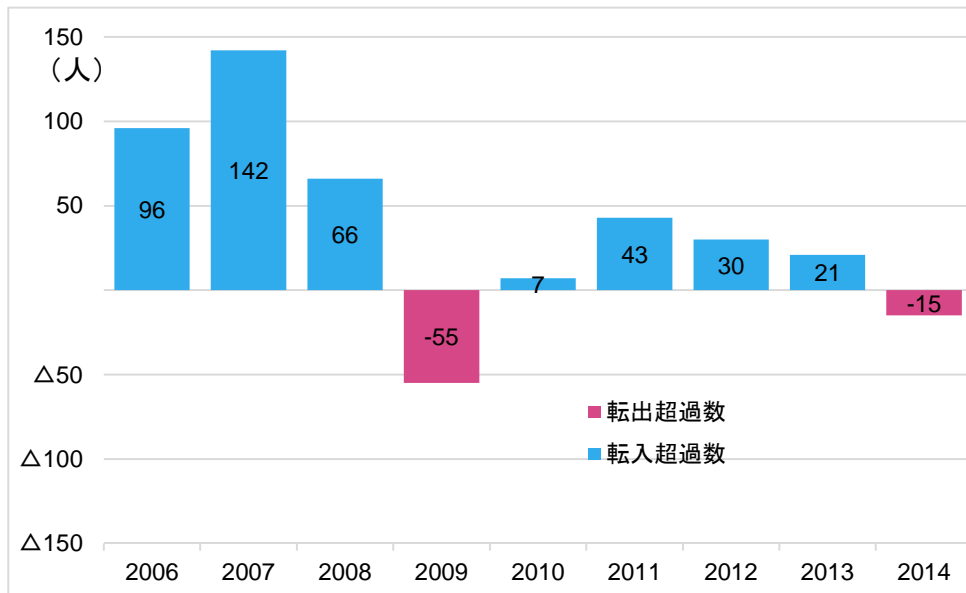
【社会動態の推移】



※調査は前年10/1～9/30までの集計

出典：石川県の人口動態（～2006年）、石川県の人口と世帯（2007年～）

【転入出状況（転入－転出）】

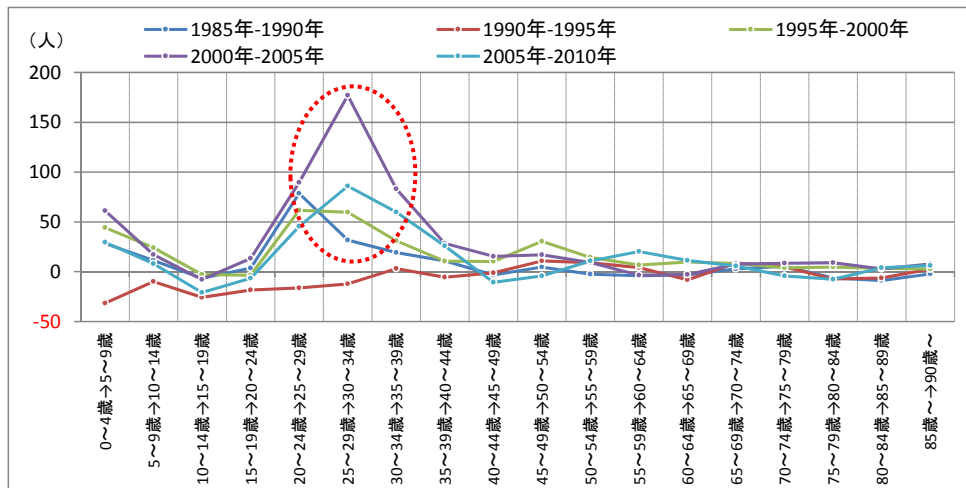


出典：石川県の人口動態（～2006年）、石川県の人口と世帯（2007年～）

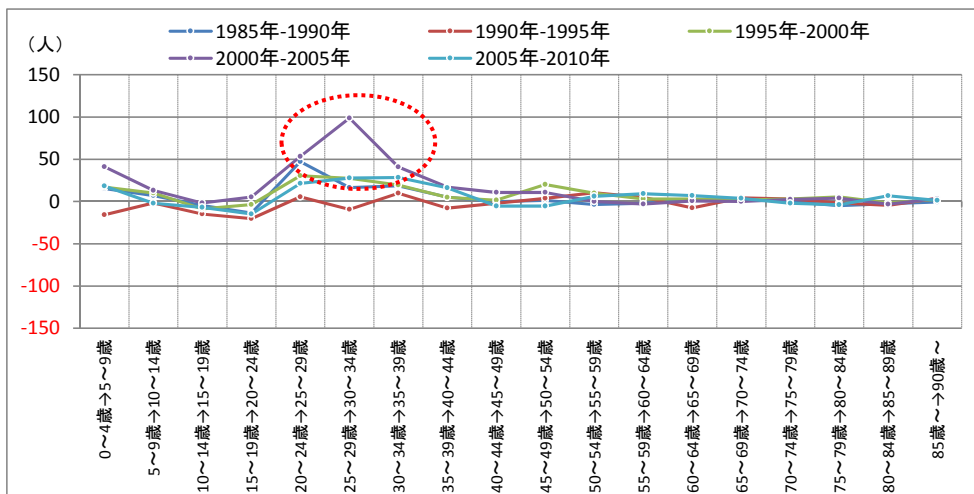
10) 男女別・年齢階級別社会動態の推移（国勢調査：1985年～2010年）

- 川北町全体では「25～24歳」が「30～34歳」になるまでの転入と「20～24歳」が「25～29歳」になるまでの転出が多くなっています。
- 特に、2000年から2005年にかけて、当時の「25～24歳」が「30～34歳」になるまでの転入が多く見られています。

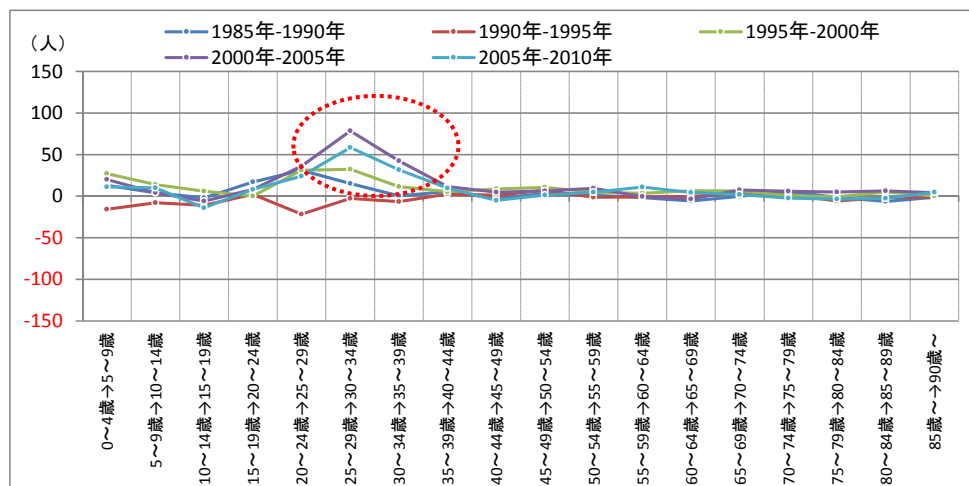
【川北町全体】



【男性】



【女性】

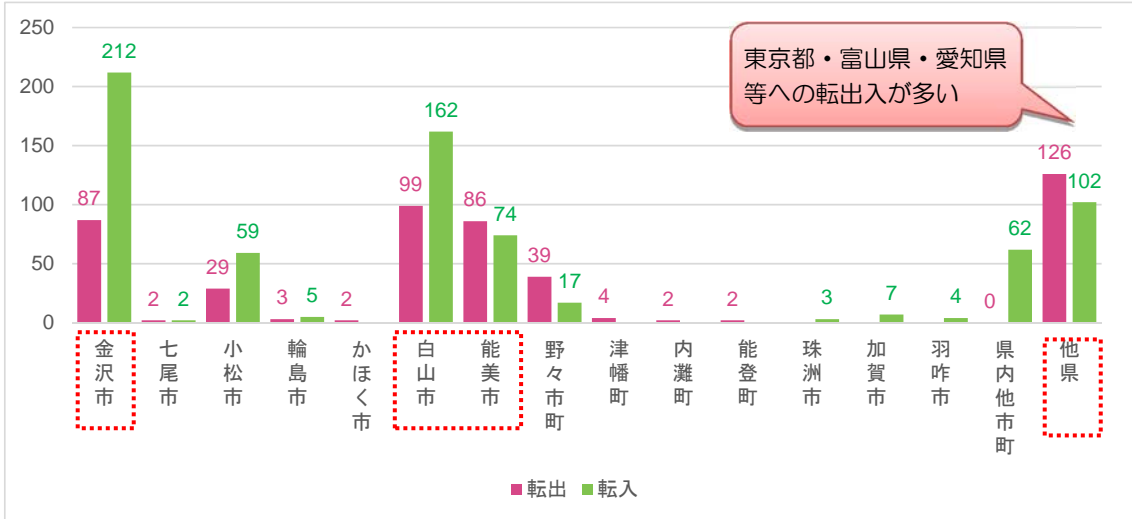


出典：国勢調査

11) 転入・転出先（国勢調査：2005年→2010年）

●金沢市、白山市、能美市及び他県との転出入が多くなっています。

【市町別転入・転出の状況】

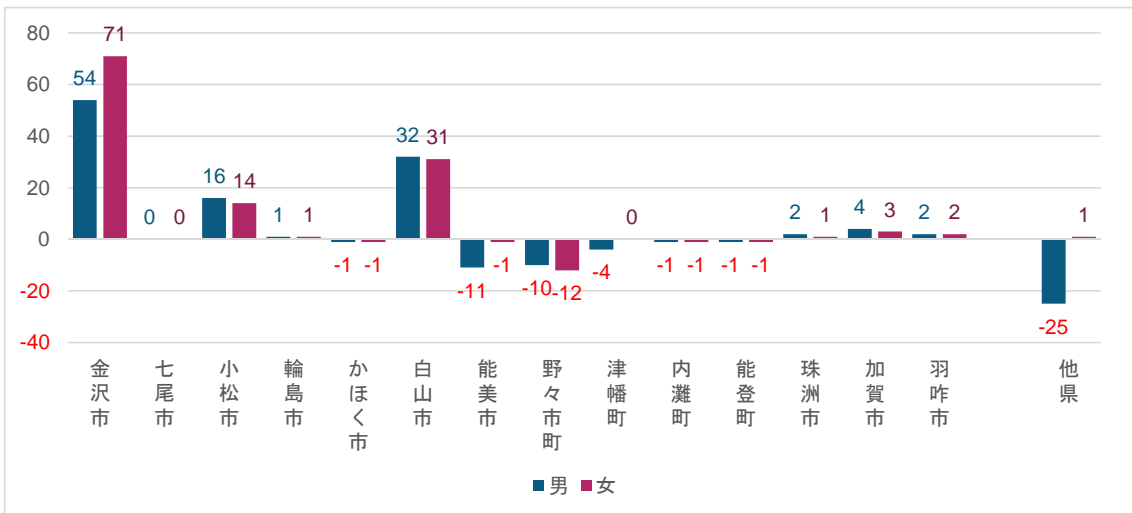


出典：国勢調査

12) 男女別転入・転出先（国勢調査：2005年→2010年）

●金沢市・白山市・小松市から転入超過である一方、他県、能美市へは転出超過となっています。

【男女別転入出状況（転入－転出）】

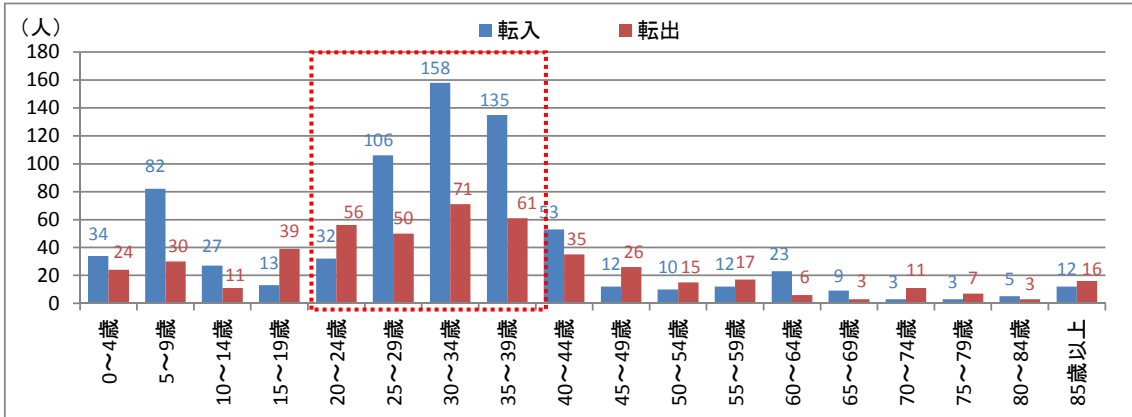


出典：国勢調査

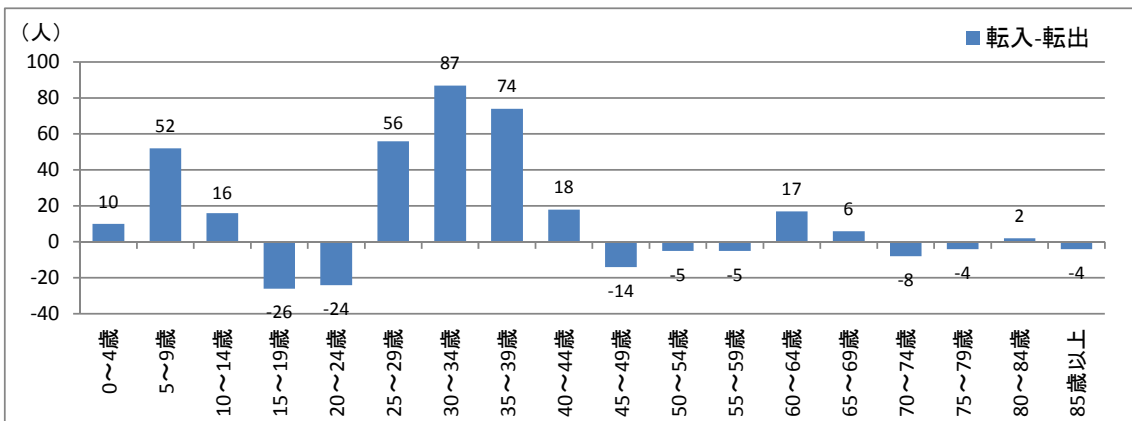
13) 年齢階級別転入・転出の状況（国勢調査：2005年→2010年）

●転入は「30～39歳」が特に顕著であり、結婚・子育て世代の新居を求めるファミリー一層の移住による転入が進んでいると想定されます。

【年齢階級別転入・転出の状況】



【年齢階級別転入出状況（転入－転出）（国勢調査：2005年→2010年）】

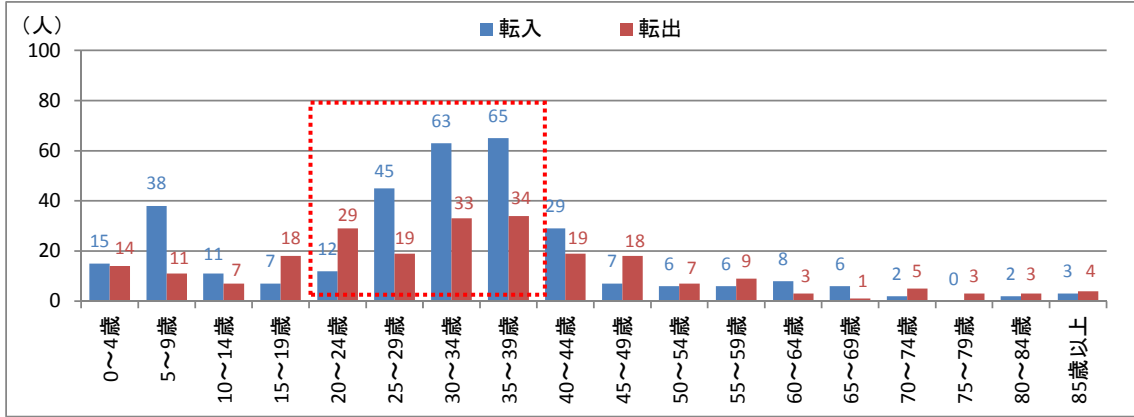


出典：国勢調査

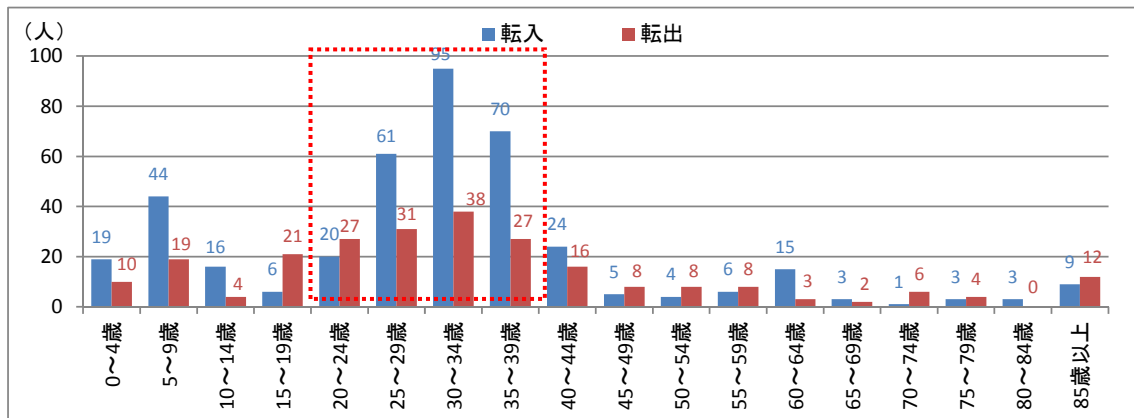
14) 男女別・年齢階級別の転入・転出の状況（国勢調査：2005年→2010年）

●男女ともに「20～39歳」にかけて、転入・転出者数が多く、特に女性の「30～34歳」の転入が顕著になっています。

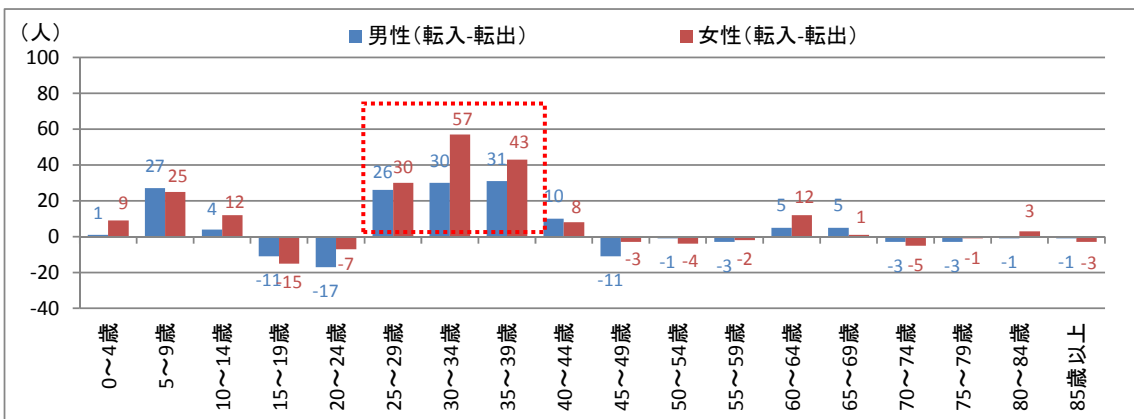
【男性の年齢階級別の転入・転出の状況】



【女性の年齢階級別の転入・転出の状況】



【男女別・年齢階級別の転入・転出の状況】

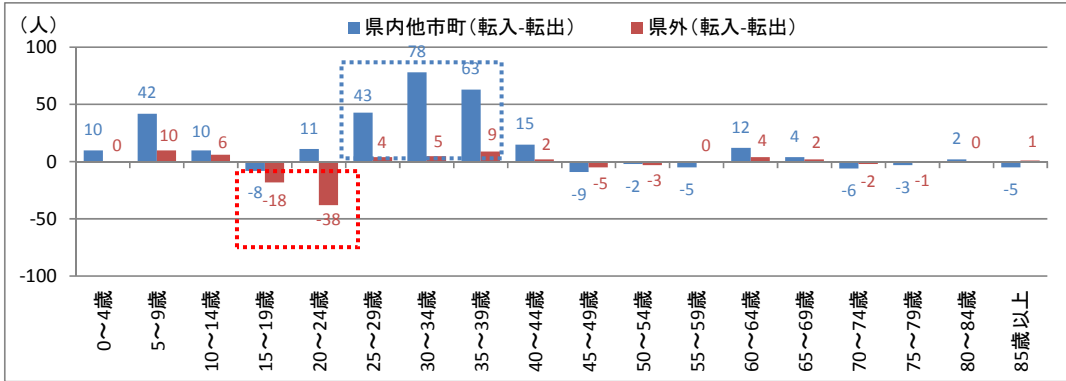


出典：国勢調査

15) 県内外別・年齢階級別の転入・転出の状況（国勢調査：2005年→2010年）

● 県内他市町からの転入が見られ、金沢市や加賀地域など近隣市町からの受け皿としての機能が働いていると想定されます。一方で大学生にあたる「20～24歳」においては、県外の大学への進学によると思われる転出が見られます。

【県内外別・年齢階級別の転入・転出の状況】

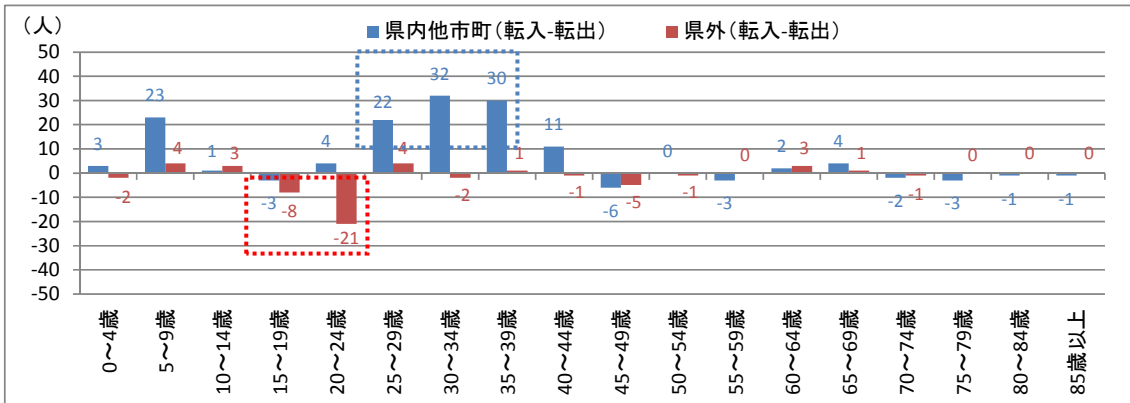


出典：国勢調査

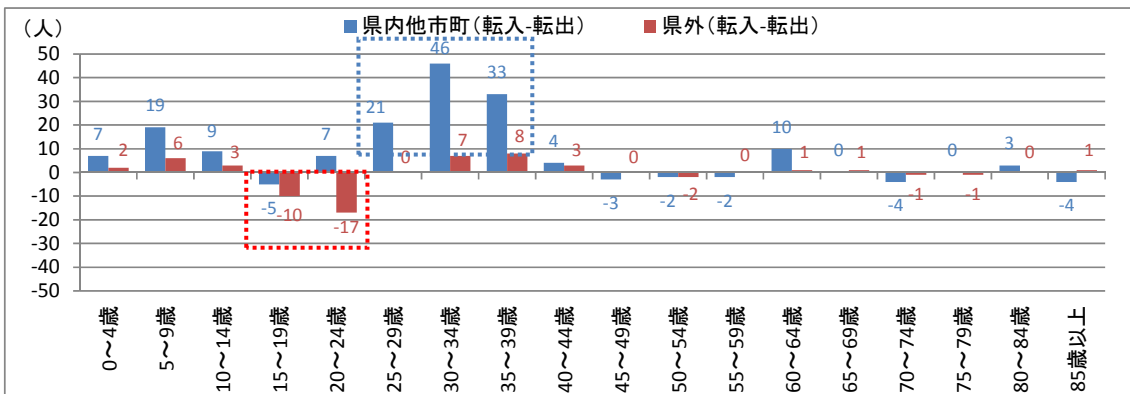
16) 男女別・県内外別・年齢階級別の転入・転出の状況（国勢調査：2005年→2010年）

● 「30～34歳」女性及び男性の県内他市町からの転入、「20～24歳」男女の県外への転出が多くなっています。

【男性の県内外別・年齢階級別の転入・転出の状況】



【女性の県内外別・年齢階級別の転入・転出の状況】



出典：国勢調査

17) 現況の総括

【人口の推移】

- 全国的に人口減少が見られる中、近年の川北町の人口は増加傾向にあり、顕著な人口減少状態とはなっていません。
- 川北町の年齢構成は、石川県や全国と比べ年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）の割合が高く、高齢化は進んでいません。ただし、地区別に見ると、町営住宅及び新興住宅地を除いた高齢化率（平成27年4月現在）は既に27%を超えており、川北町においても高齢化の傾向が顕在化しています。

【産業の推移】

- 川北町では第2次産業の就業者人口割合が他市町に比べ高くなっています。
- 川北町の産業は、「建設業」「卸売業・小売業」の従業員数が多くなっています。

【出生率】

- 合計特殊出生率については、石川県、全国と比べ高くなっており、年少人口（0～14歳）が多い1つの要因となっています。

【転入・転出の推移】

- 転入・転出者数は、ほぼ転入超過で推移しています。
- 転入は「30～39歳」、転出は「20～24歳」が特に顕著であり、結婚・子育て世代の新居を求めるファミリー層の移住による転入及び進学による転出が進んでいると想定されます。
- 金沢市をはじめ近隣市町からの転入が見られ、金沢市や加賀地域からの受け皿としての機能が働いていると想定されます。一方で大学生にあたる「20～24歳」においては、県外の大学への進学によると思われる転出が見られます。

3. 川北町の将来人口

1) 推計パターンの考え方

将来人口の推計パターンは、以下の3種類を基本とします。

(1) シミュレーション1 (国推計)

全国の移動率が、今後一定程度縮小すると仮定した推計 (社人研準拠)

出生に関する仮定	原則として、平成 22(2010)年の全国の子ども女性比 (15~49歳女性人口に対する0~4歳人口の比)と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が平成 27(2015)年以降 52(2040)年まで一定として市町村ごとに仮定。 ★上記の仮定に基づいて出される「合計特殊出生率」が、川北町においては過大に推計されるため留意が必要。
死亡に関する仮定	原則として、55~59歳→60~64歳以下では、全国と都道府県の平成 17(2005)年→22(2010)年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。 60~64歳→65~69歳以上では、上述に加えて、都道府県と市町村の平成 12(2000)年→17(2005)年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。
移動に関する仮定	原則として、平成 17(2005)~22(2010)年の国勢調査 (実績)に基づいて算出された純移動率が、平成 27(2015)~32(2020)年までに定率で 0.5 倍に縮小し、その後はその値を平成 47(2035)~52(2040)年まで一定と仮定。

(2) シミュレーション2 (出生率現状維持パターン)

川北町における合計特殊出生率が平成 22(2010)年と同程度 (1.62) で推移したと仮定。

出生に関する仮定	<u>合計特殊出生率が平成 22(2010)年と同程度 (1.62) で推移したと仮定。</u>
死亡に関する仮定	シミュレーション1 (国推計) と同様。
移動に関する仮定	シミュレーション1 (国推計) と同様。

(3) シミュレーション3 (出生率向上パターン)

仮に、シミュレーション2 (出生率現状維持パターン) において、合計特殊出生率が平成 32 (2020) 年に 1.8、平成 47 (2035) 年に人口置換水準 (人口を長期的に一定に保てる水準の 2.07) まで上昇したとした場合のシミュレーション。

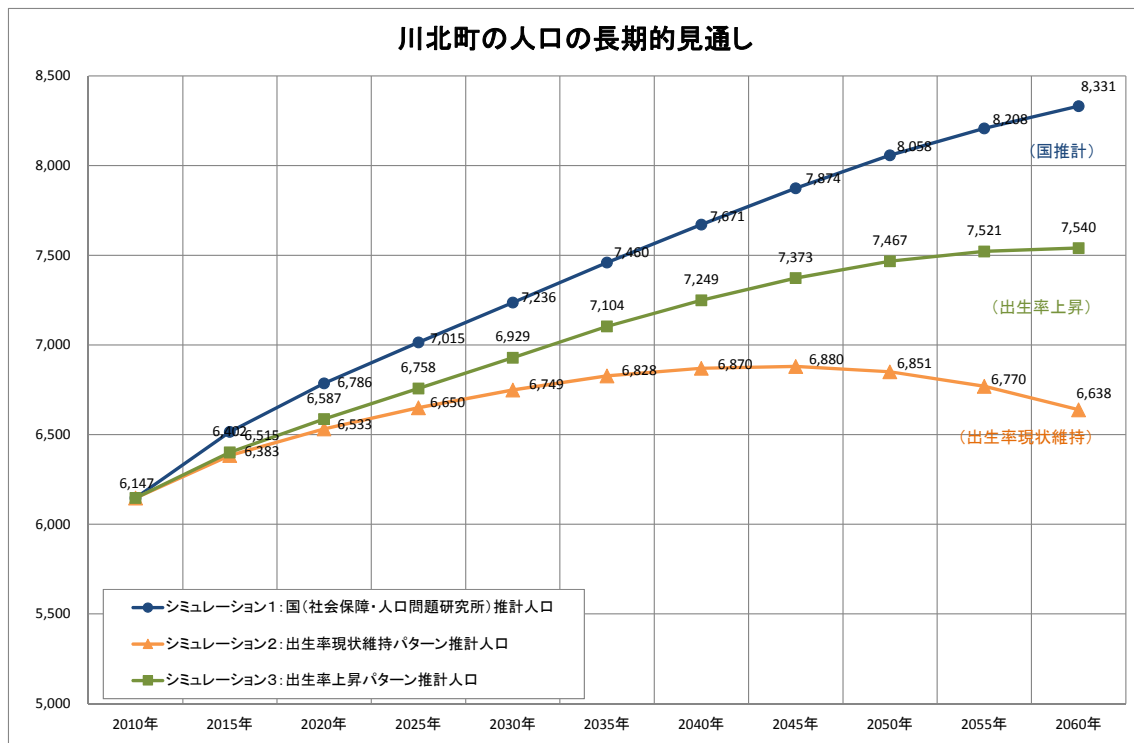
なお、現況と平成 32 年及び平成 32 年から平成 47 年の中間年については、直線的に数値を設定します。

出生に関する仮定	<u>合計特殊出生率が平成 32 (2020) 年に 1.8、平成 47 (2035) 年に人口置換水準 2.07 まで上昇したと仮定。</u>
死亡に関する仮定	シミュレーション1 (国推計) と同様。
移動に関する仮定	シミュレーション1 (国推計) と同様。

2) 町全体の人口推計 (2060 年まで)

(1) 将来推計

- 川北町における現況(2010年)人口6,147人に対して、2040年における国推計人口(シミュレーション1)は、7,671人と大幅に増加するとされています。※脚注1参照
- 川北町における合計特殊出生率が現況(1.62)のまま推移すると仮定すると(シミュレーション2)2040年人口は6,870人であり、2045年までは増加傾向、その後減少局面に入ると想定されます。※脚注2参照
- 川北町における合計特殊出生率が2035年までに人口置換水準である2.07まで上昇したと仮定すると(シミュレーション3)2060年人口は7,540人まで増加すると想定されます。



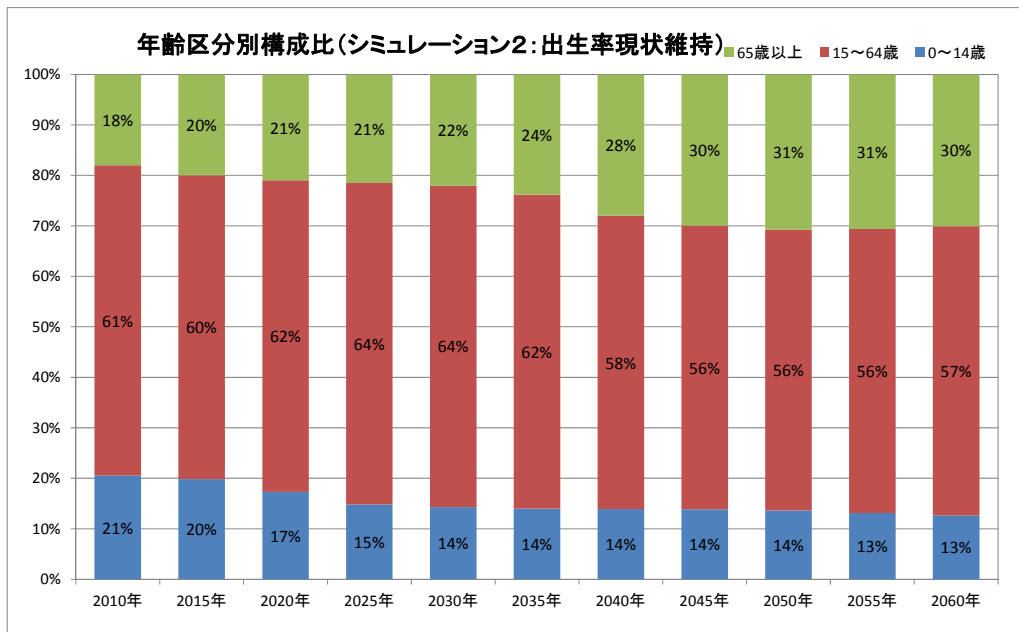
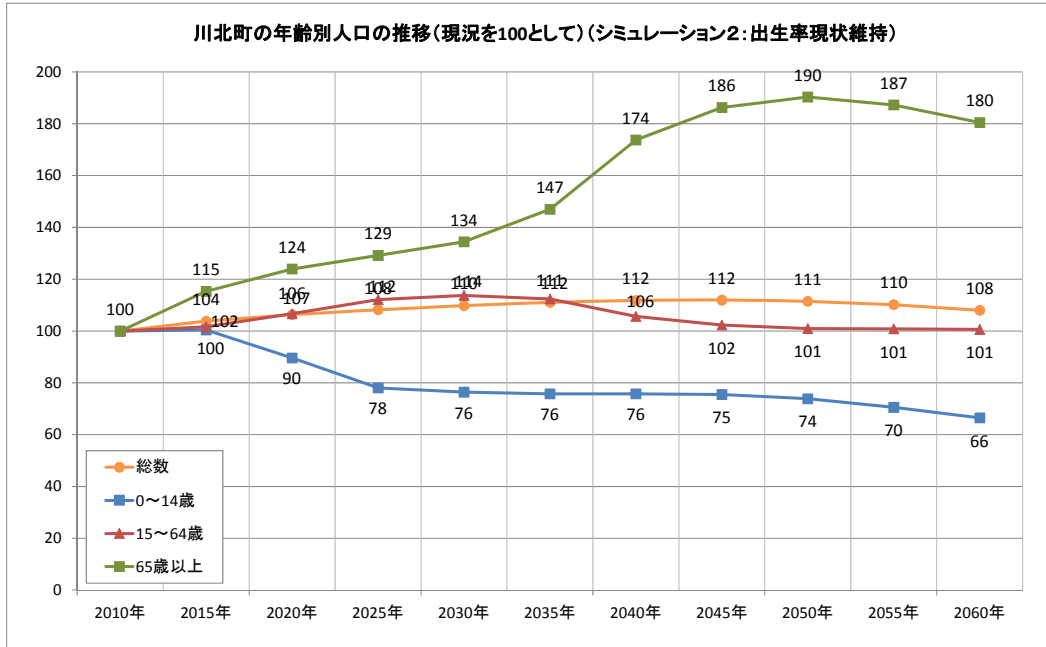
※1 社人研推計が過大となる要因としては、推計の前提となる「子ども女性比」が、全国平均と川北町で大きく異なる(川北町における人口ピラミッド構造が全国の傾向と大きく異なる)ことにより、合計特殊出生率が過大に推計(2.18~2.26)されているためと考えられます。

あわせて、川北町においては町営住宅及び新興住宅地とそれ以外の地区において高齢化の傾向が大きく異なっており、高齢化が極めて高い地域も多いことを勘案すると、国推計は過大推計の傾向であると言えます。

※2 2040年まで増加傾向となる主な要因は、これまでの川北町における純移動率が転入超過であり、その傾向が一定続くという仮定に基づいているためです。

(2) 人口増加・減少段階の分析

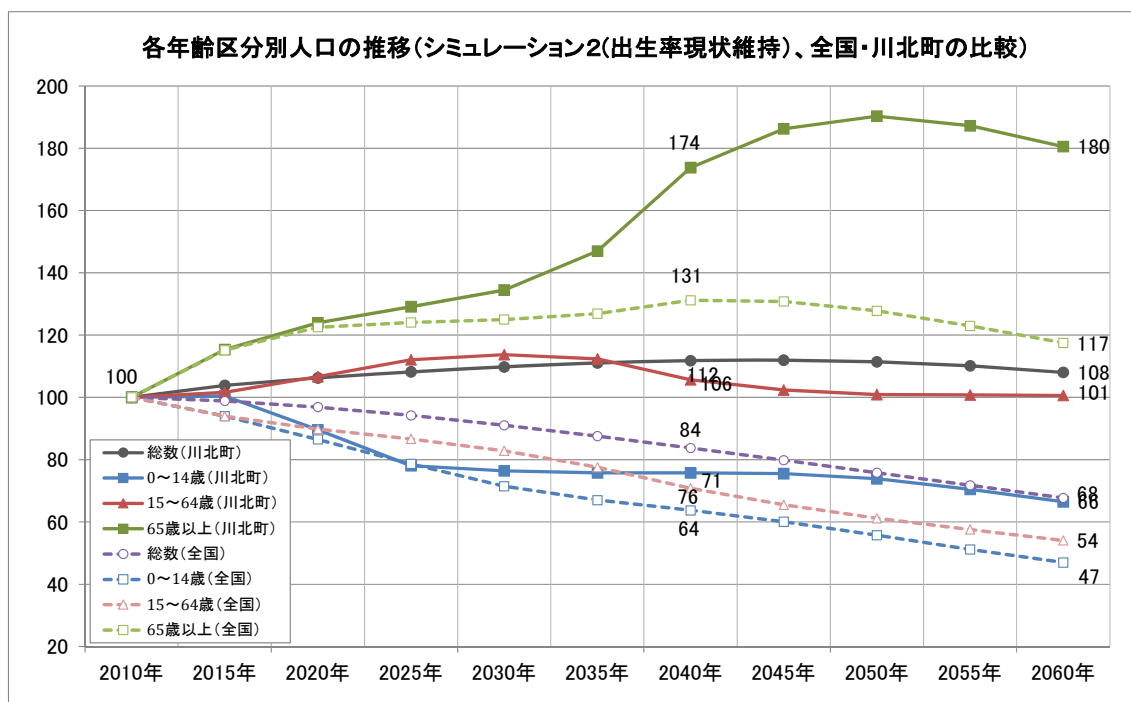
●シミュレーション2（出生率現状維持）における年少人口（0～14歳）は2020年以降減少傾向です。生産年齢人口（15～64歳）はほぼ横ばいで推移しますが、老年人口（65歳以上）は2035年以降急激な増加が予想されます。



(3) シミュレーション2 (出生率現状維持) における全国との比較

●全国のお都市が人口減少時代に入中、本町においては出生率が現状維持となるケースにおいても緩やかに人口増加が続くと想定されますが、2035年以降急激な高齢化の進展が想定されます。

2010年を100とした場合の各年齢区分の推移を全国と比較した場合、川北町では引き続き人口の増加が想定されます。しかし、2035年以降に急激な高齢化の進展が想定されます。



※全国推計は社人研の推計値 (出生中位・死亡中位)

3) 人口変化が将来に与える影響

川北町では引き続き自然増及び社会増に伴う人口増加が見込まれますが、今後も続く人口増加が川北町において長期的にどのような影響を生じさせるか、次に考察します。

①安心・安全で文化的な暮らしへの影響

- ・2040年以降に急激な高齢化の進展が推測されており、車を自由に使えない高齢者の移動が将来的に困難になるおそれがあるほか、コミュニティ機能の維持や祭り・伝統芸能等の伝承が困難になるおそれがあります。

②地域の産業や経済等における影響

- ・第1次産業人口が年々減少しており、将来的な農業従事者の担い手不足、その結果耕作放棄地の増加と、本町の魅力である豊かな田園風景と自然環境の悪化が懸念されます。

③教育環境への影響

- ・短期的には今後も学齢人口の増加が続くと想定され、教室数等のハード整備が一時的に必要となるほか、過度な人口流入は生活環境、教育環境に影響を与える懸念があります。
- ・一方、中長期的には若年人口が減少に転じるため、学校の小規模化等による教育環境の悪化や、通学環境や教育環境が良い場所に転出するなどの懸念も想定されます。

④税収等の増減、社会保障等の財政需要などによる地方公共団体の財政への影響

- ・さらなる人口流入により、子育て世代等に対する手厚い支援策の維持費が増加することで、持続的な政策維持が困難となる可能性があります。
- ・2040年以降の老年人口の急激な増加により、医療費や介護費等の社会保障費が増加し、財源の圧迫などにより住民負担及び行政負担の増加が懸念されます。

⑤公共施設の維持管理・更新等への影響

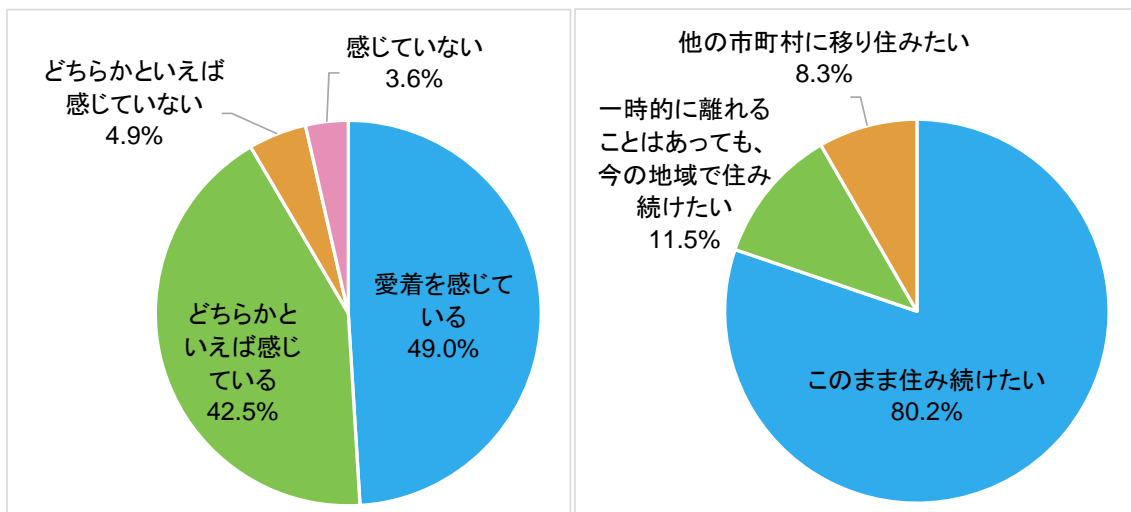
- ・今後生産年齢人口の伸びが鈍化することにより、公共施設の維持管理・更新に必要な予算の確保が困難となる可能性があります。

4. 町が目指す将来の方向と人口の将来展望

1) 町民の意向（町民アンケート結果より）

①川北町への愛着及び将来の居留意向

- ・川北町への愛着を感じている人、今の地域で住み続けたいと思う人がいずれも9割を超えており、住民の町に対する深い愛着をうかがうことができます。
- ・満足度の高さと合わせ、これからも町民が愛着を持って住み続けることができるような施策展開が求められます。

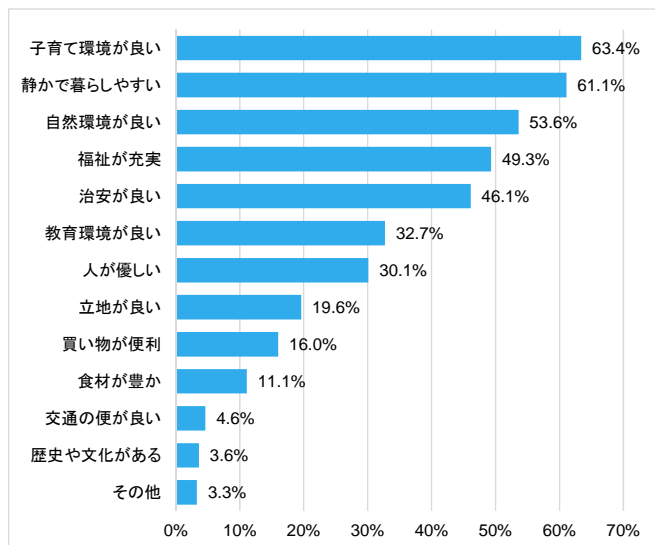


【川北町への愛着度】

【川北町への定住意向】

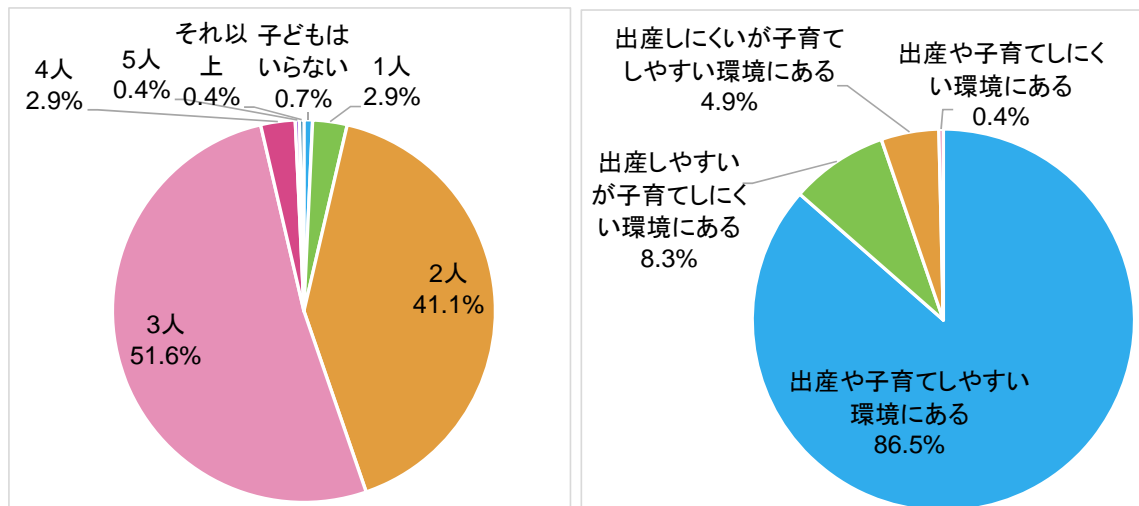
②川北町への定住に対する他市町と比べた魅力

- ・川北町への定住に対する魅力（複数回答）に関しては「子育て環境が良い」「静かで暮らしやすい」「自然環境が良い」「福祉が充実」といった項目が多くなっています。
- ・川北町が特に力を入れて取り組んだ子育て支援策を継続するとともに、静かで自然豊かな居住環境を守り育てることが、川北町ならではの魅力をさらに高めることに繋がると言えます。



③希望出産数及び出産・子育て環境

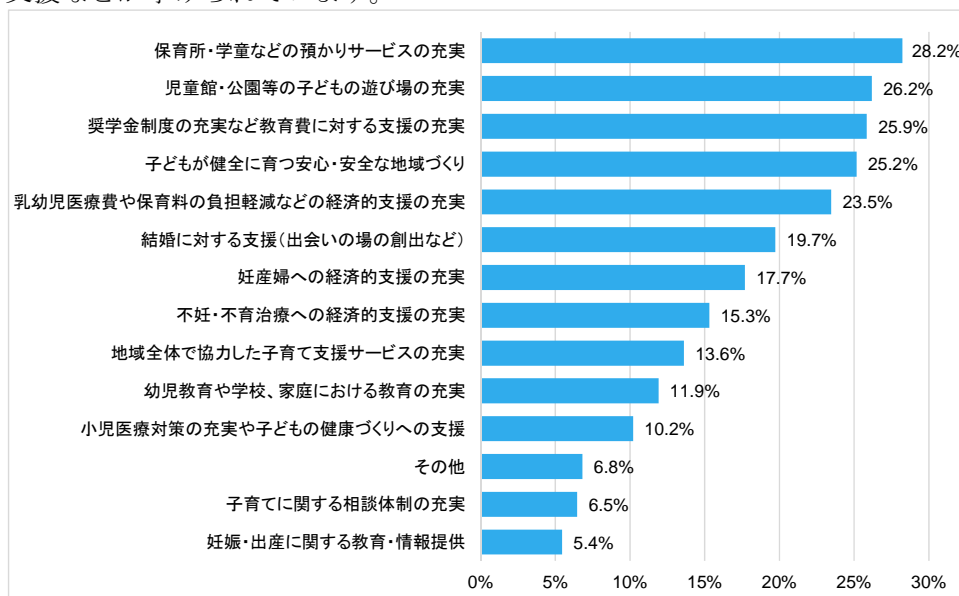
- ・回答者の9割強が既婚者（離死別含む）ですが、既婚者が考える理想的な子どもの数は2～3人との回答が多く、平均した子どもの数の希望数は2.53人となりました。
- ・川北町は「出産や子育てしやすい環境にある」との回答が非常に高く、町独自の子育て支援策などが町民に評価されていると言えます。



【理想的な子どもの数(既婚者対象)】

【出産や子育てしやすい環境にあるか】

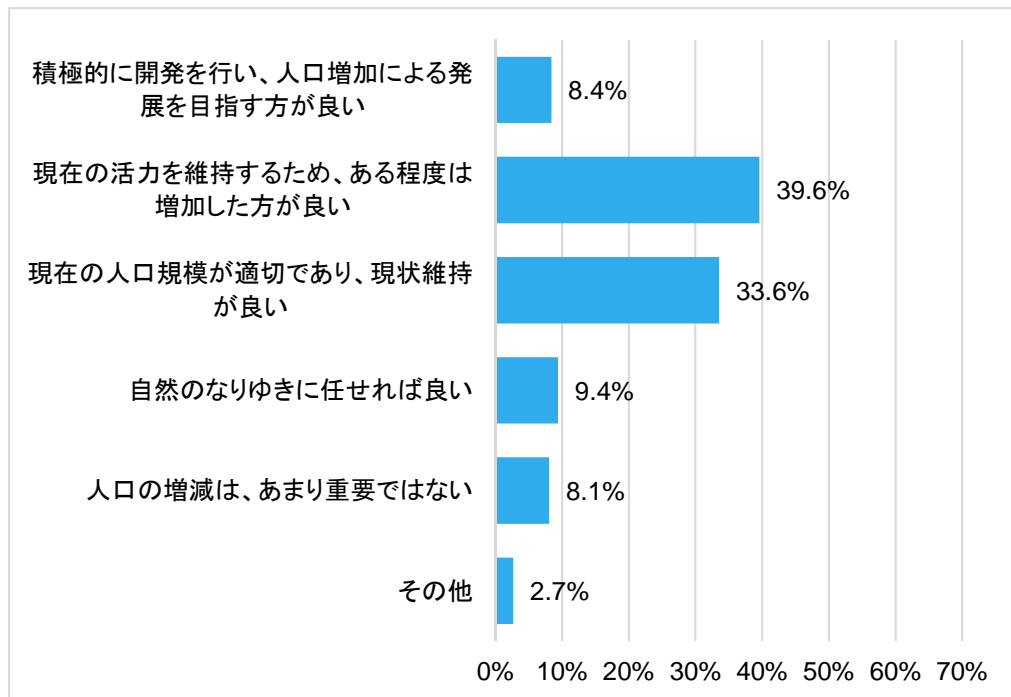
- ・結婚・出産・子育て支援を進める上で、今後、川北町が充実すべきと思う施策（複数回答）によると、保育・預かりサービスや子どもの遊び場などの充実、教育費支援などが挙げられています。



【結婚・出産・子育て支援を進める上で、今後、川北町が充実すべきと思う施策】

④将来人口のあり方

- ・将来人口に対する意向を見ると、積極的な人口増加を望む回答は少なく、「ある程度増加」及び「現状維持」を望む回答が多くなっています。
- ・このことから、現在の活力維持に向けて、適正な人口規模の設定及び開発誘導を展開していくことが望まれます。



2) 川北町が目指す将来の方向

前述の現況・課題や町民の意向調査結果のほか、国や石川県の長期ビジョンを踏まえ、川北町が目指す将来の方向を次にまとめます。

①安心して子どもを産み、育てられる環境を地域が一体となつてつくる

- ・川北町は他自治体と比べても出生率が高い傾向にありますが、来るべき高齢化社会に向け、経済活動の担い手となる若い世代を確保することで町の活力を保つため、引き続き出生率の向上を図る必要があります。
- ・このため、出産に向けた支援、保育環境の充実、多世代による同居、隣居、近居の促進を含め、子どもを安心して産み、育てながら、男女ともに社会で働ける環境づくりを進めることにより、出生率の目標である人口置換水準（合計特殊出生率2.07）の実現を目指します。

②ずっと住み続けられる「川北町」実現のための定住の促進

- ・多くの町民が、「子育て環境が良い」「静かで暮らしやすい」「自然環境が良い」「福祉が充実」などを魅力と感じています。一方で、高等教育機関が町内にないこと及び公共交通が未発達であること等の要因により、高校・大学への進学時をきっかけとした若年層の転出の傾向も見られます。
- ・このため、多くの町民が抱く「川北町にずっと住み続けたい」という思いを実現するため、公共交通の充実や交流の活性化、雇用の創出などにより、他自治体への転出を抑制し、“ずっと住み続けたい”と感じられる地域づくりに取り組みます。

③町民がずっと元気に暮らせるための生活基盤の維持・充実

- ・これまで川北町では新興住宅地を中心とした若年層の転入が相次いでいますが、地区ごとの高齢化率の差が大きく、空き家や既存インフラの老朽化・更新などの問題が今後顕在化するおそれがあります。
- ・豊かな自然と調和した生活環境の整備・充実を図るとともに、住み慣れた地域で、安全に、安心して暮らし続けることができる環境を創出・充実することにより、定住の促進を図ります。
- ・また、今後急激な増加が予想される高齢者が生き生きと暮らすことができる地域づくりの推進により健康寿命の延伸を目指します。

3) 人口の将来展望及び目標人口

①将来人口の考え方

- ・人口の年齢構成のバランス維持を図り、まちの賑わいと活力を維持し、持続可能で安全・安心な地域社会の実現を目指します。
- ・そのため、国全体で取り組む出生率の改善に向けた積極的な施策展開を行うとともに、現状の社会移動を維持し、転出の抑制に向けた取り組みを推進します。

<人口の推計方法> ※シミュレーション3（出生率上昇）ケースを基本とします

- 自然動態：国と同様の合計特殊出生率向上を目指した各種施策を展開

※国においては2040年に合計特殊出生率が人口置換水準である2.07を目指していますが、全国平均と比べ高い出生率となっている川北町においては、国の目標年次より5年前倒しし、2035年に2.07を目指すものとして設定します。

⇒合計特殊出生率 2020年：1.8、2035年：2.07

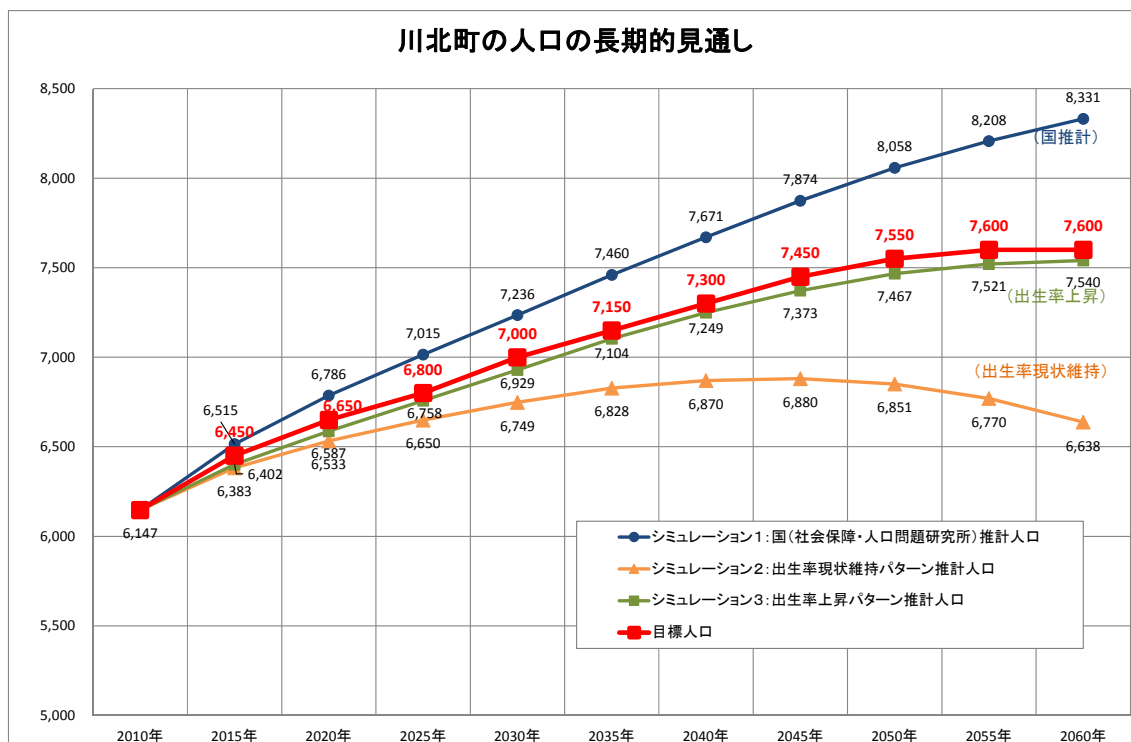
- 社会動態：現在の社会動態の推移（転入超過傾向）を今後も継続

②人口の将来展望及び目標人口

上記の考え方に基づき、

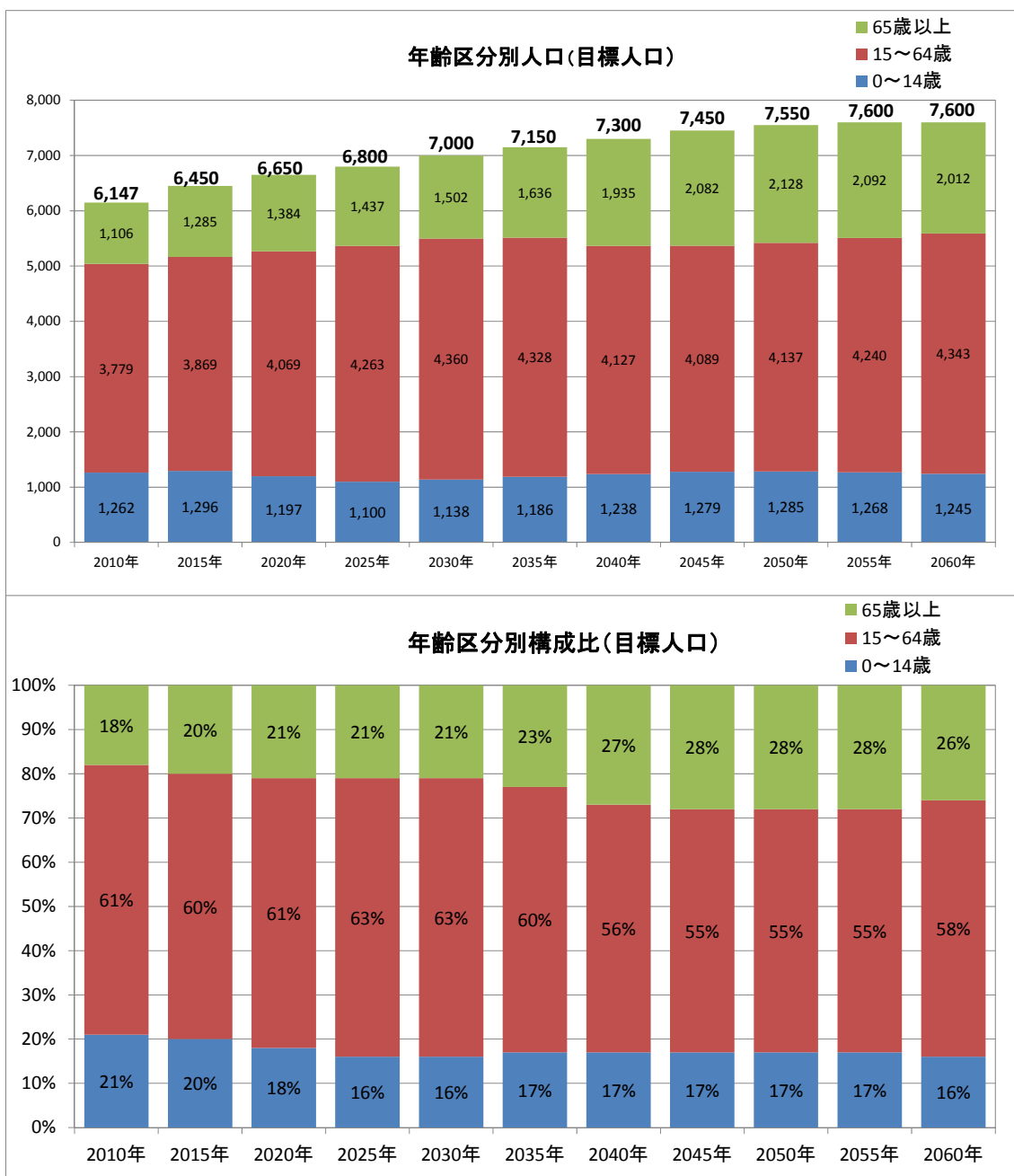
2025年の目標人口を6,800人(10年後)
2060年の目標人口を7,600人(長期目標)

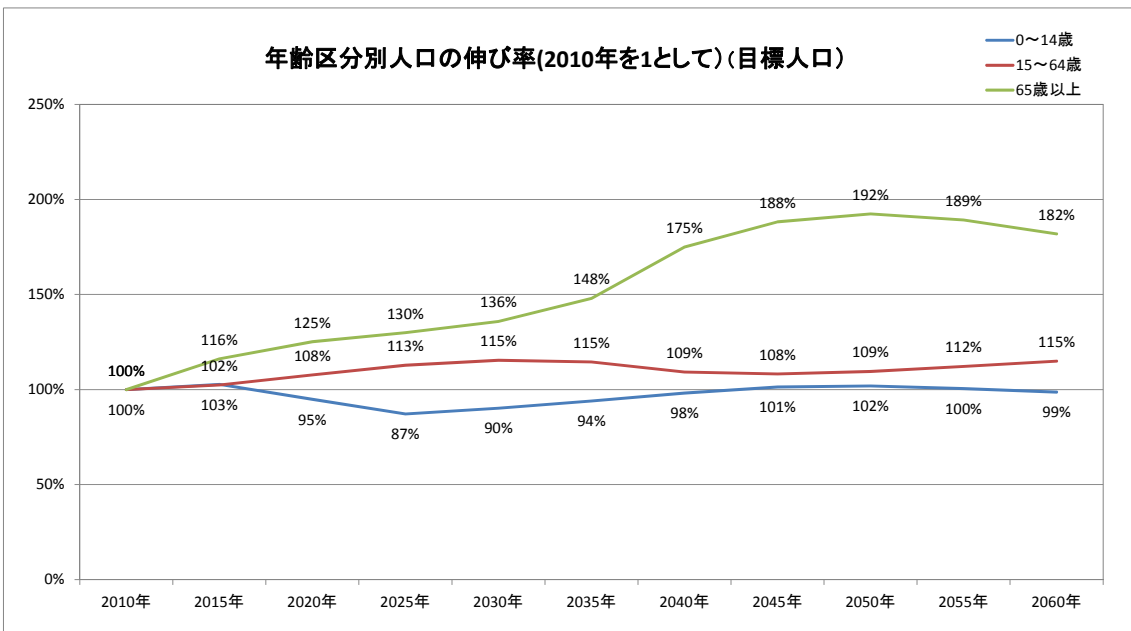
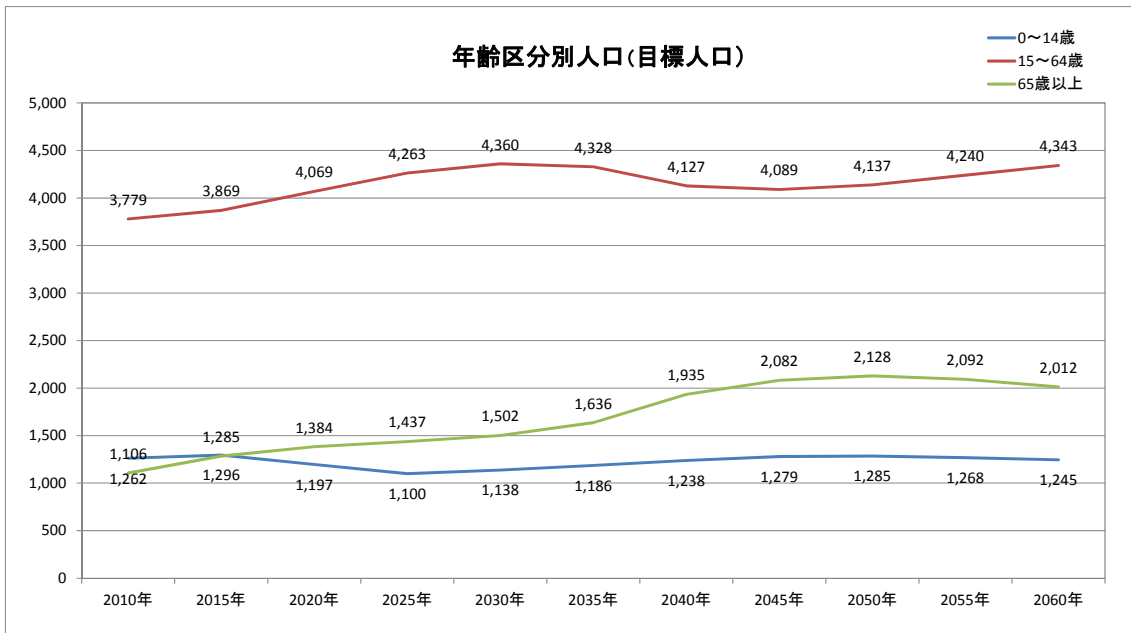
と設定します。



各中間年次の目標人口は2060年人口を7,600人とシミュレーション3（出生率上昇ケース）の各年次推計人口の伸び率で内挿し、さらに50人単位で丸めて算出しました。

年齢区分別人口の推移（目標人口）







石川県川北町

川北町人口ビジョン

発行日 平成 28 年 3 月

発行者 川北町役場

〒923-1295 石川県能美郡川北町字壺ツ屋 174 番地 Tel:076-277-1111(代表)